

# 官報 號外

大正十年二月十一日 金曜日

印刷局

第四十四回衆議院議事速記録第十二號

大正十年二月十日(木曜日)午後一時十五分開議

議事日程 第十一號 大正十年二月十日

午後一時開議

- 第一 大正九年勅令第五百三十四號(承諾ヲ求ムル件)
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第三 明治三十九年法律第三十四號中改正法律案(政府提出)
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第五 臨時國庫證券法中改正法律案(政府提出)
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第七 大正五年法律第四號中改正法律案(政府提出)
- 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第九 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)
- 第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十一 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)
- 第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十三 樺太事業公債法中改正法律案(政府提出)
- 第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十五 作業會計法中改正法律案(政府提出)
- 第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十七 海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案(政府提出)
- 第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十九 執達吏規則中改正法律案(政府提出)
- 第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十一 獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入稅免除ニ關スル法律案(政府提出)

- 第二十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十三 大學特別會計法案(政府提出)
- 第二十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十五 大正八年法律第十二號中改正法律案(政府提出)
- 第二十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十七 帝國鐵道會計法中改正法律案(政府提出)
- 第二十八 市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案(守屋松之助君外二名提出)
- 第二十九 公務員ノ行爲ニ依ル損害賠償及犯罪者補償金附與ニ關スル法律案(上島益三郎君提出)
- 第三十 刑事訴訟法中改正法律案(戶本寬人君外三名提出)
- 第三十一 沒祿者給與法案(熊谷直太君外八名提出)
- 第三十二 決議案(軍備制限ニ關スル件)(尾崎行雄君提出)
- 第三十三 徵兵令事務施行細則改正ニ關スル建議案(植原悅二郎君提出)
- 第三十四 樞密院官制改正ニ關スル建議案(副島義一君提出)
- 第三十五 產業組合法及重要物產同業組合法改正並同組合振興ニ關スル建議案(土井權大君提出)
- 第三十六 成年調查ニ關スル建議案(與村安太郎君外一名提出)
- 第三十七 石油政策ニ對スル燃料調查會設立ニ關スル建議案(高野毅君提出)
- 第三十八 特別市制促進ニ關スル建議案(作間耕逸君外五名提出)

○議長(奧繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス  
(原田書記官朗讀)

一 議員ノ異動左ノ如シ

秋田縣第二區選出議員池田龜治君ノ補闕トシテ村山喜一郎君當選セラレタリ

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

明治三十九年法律第三十四號中改正法律案

臨時國庫證券法中改正法律案

大正五年法律第四號中改正法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中改正法律案

樺太事業公債法中改正法律案

作業會計法中改正法律案

海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案

執達吏規則中改正法律案

(以上二月七日提出)

獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入稅免除ニ關スル法律案

大學特別會計法案

大正八年法律第十二號中改正法律案

(以上二月九日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

沒祿者給與法案

提出者 熊谷 直太君 鈴木 巖君

遠藤 良吉君 久慈 貫一君

八田 宗吉君 北山 一郎君

石川 淳君 中島 鵬六君

阿部武智雄君

府縣制中改正法律案

提出者 箕浦 勝人君 下岡 忠治君

早速 整爾君 關 和知君

郡制中改正法律案

提出者 箕浦 勝人君 下岡 忠治君

早速 整爾君 關 和知君

市制中改正法律案

提出者 箕浦 勝人君 下岡 忠治君

早速 整爾君 關 和知君

提出者 箕浦 勝人君 下岡 忠治君

早速 整爾君 關 和知君

町村制中改正法律案

提出者 箕浦 勝人君 下岡 忠治君

提出者 早速 整爾君 關 和知君

提出者 箕浦 勝人君 下岡 忠治君

提出者 早速 整爾君 關 和知君

米穀專賣法制定ニ關スル建議案 佐々木平次郎君

提出者 小菅劍之助君 松下 禎二君

商務省及工務省設置ニ關スル建議案 松下 禎二君

提出者 與村安太郎君 松下 禎二君

癲狂院増設ニ關スル建議案 香川 保忠君

提出者 中馬 興九君 松下 禎二君

土地收用法中改正法律案 以上二月五日提出

提出者 上島益三郎君 以上二月七日提出

決議案(朝鮮統治ニ關シ調査委員會設置ノ件) 中野 正剛君

決議案(軍備制限ニ關スル件) 以上二月八日提出

提出者 尾崎 行雄君 以上二月九日提出

傳染病豫防法改正ニ關スル建議案 香川 保忠君

提出者 松下 禎二君 三浦得一郎君

議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ 以上二月九日提出

市町村ノ自治體ヲシテ煙草元賣捌事務ヲ取扱ハシムル件ニ關スル質問主意書

提出者 高草美代藏君 養蠶及製絲業者救済ニ關スル質問主意書

提出者 早川 龍介君 支那共和國留學生ニ關スル質問主意書

鈴木 錠藏君 友常毅三郎君 樋渡次右衛門君

岡 順次君 高橋善五郎君 阿由葉勝作君

高田 松平君 高草美代藏君 矢島 專平君

民事訴訟費用法中改正法律案 今井 今助君

黑住 成章君 若林 德懋君 益谷 秀次君

大道寺慶男君 井上 剛一君 作間 耕逸君 砂田 重政君

埋葬法案 池田猪三次君 大林森次郎君 岩崎宗茂助君

宜保 成晴君 山田 永俊君 中村 喜平君

香川 保忠君 中馬 興九君 松下 禎二君

身元保證ニ關スル法律案 加藤重三郎君 向井 倭雄君 中島 鵬六君

高見 之通君 八並 武治君 清水留三郎君

任ニ付其ノ補闕トシテ深見寅之助君ヲ議長ニ於テ選

定セリ 去七日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

煙草專賣法中改正法律案委員 委員長 鈴木 錠藏君 理事 樋渡次右衛門君

民事訴訟費用法中改正法律案委員 委員長 黑住 成章君 理事 砂田 重政君

埋葬法案委員 委員長 池田猪三次君 理事 松下 禎二君

身元保證ニ關スル法律案委員 委員長 加藤重三郎君 理事 中島 鵬六君

宇岩鐵道敷設ニ關スル建議案外二件委員 委員長 小山田信藏君 理事 松岡 俊三君

宇岩鐵道敷設ニ關スル建議案外二件委員 委員長 小山田信藏君 理事 松岡 俊三君

發明獎勵ニ關スル建議案外二件委員 委員長 波多野承五郎君 理事 與村安太郎君

川内川改修ニ關スル建議案 委員長 陣 軍吉君 理事 松山常次郎君

豫算委員藤井啓一君(橋本喜造君補闕) 一 今十日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ

議席ヲ左ノ通指定セリ

三二六 村山 喜一郎君

○議長(與繁三郎君) 新ニ議席ニ列セラレタル議員ヲ紹

介致シマス、氏名ヲ讀上ゲマシタル人ハ起立ヲ望ミマス、第

三百二十六番秋田縣第二區選出議員村山喜一郎君

(村山喜一郎君起立、拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス

○中倉萬次郎君 食糧政策ニ關スル委員會ヲ開キタイト

思ヒマスカラ、御許可ヲ願ヒマス

○議長(與繁三郎君) 委員會開會ノ請求ヲセラレマシタ

ガ、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

第一 大正九年勅令第五百三十四號(形)

諸ヲ求ムル件)

大正九年勅令第五百三十四號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約ニ依リ財產處理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正九年十一月十七日

內閣總理大臣

原 敬

海軍大臣

男爵加藤友三郎

外務大臣

伯爵內田 康哉

大藏大臣

子爵高橋 是清

陸軍大臣

男爵田中 義一

農商務大臣

男爵山本 達雄

內務大臣

床次竹二郎

文部大臣

中橋德五郎

逓信大臣

野田卯太郎

鐵道大臣

元田 肇

司法大臣

伯爵大木 遠吉

勅令第五百三十四號

大正九年勅令第五百三十四號ハ墺地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財產ヲ以テ同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約第二百四十九條ニ規定スル支拂ニ充ツル場合ニ之ヲ準用ス

〔國務大臣伯爵大木遠吉君登壇、拍手起ル〕

○國務大臣(伯爵大木遠吉君) 唯今 議題ニナリマシタ所ノ緊急勅令ノ事後承諾ノ件ニ就キマシテ、聊カ説明ヲ申上ダタイト思ヒマス、對墺條約ノ實施ニ件ヒマシテ、帝國政府ハ一日モ速ク其ノ管理財產ヲ以テマシテ、帝國臣民ガ墺地利國政府、又ハ其臣民ニ對シテ有スル所ノ損害賠償ノ請求權並ニ其他ノ債權ノ仕拂ニ充當スルノ必要ガアルノデアリマス、殊ニ帝國臣民ノ財產回收ノ請求ニ就キマシテハ、條約ニ期限ノ定ガアリマシテ、一日モ早ク之ガ請求ヲ爲スコトガ最モ肝要デアアルデアリマス、此故ニ政府ハ曩ニ此勅令ヲ公布致シタ次第デアリマス、而シテ此勅令ハ將來尙ホ其效力ヲ有セシメルノ必要ガアルデアリマシテ、帝國憲法第八條第二項ニ遵ヒマシテ、本會議ニ承諾ヲ求メル爲メニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、ドウソ慎重御審議ノ上、御協賛アラント願フデアリマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 日程第二、右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 委員ノ數ハ特ニ二十八名トシ、議長ニ於テ指名アラント望ミマス

〔贊成〕贊成トノ聲起ル

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(奧繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三、第五ハ關聯セル議案デアリマスカラ一括議題ニ供シマス、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(奧繁三郎君) 仍テ一括シテ議題ニ供シマス、日程第三、明治三十九年法律第三十四號中改正法律案、日程第五、臨時國庫證券法中改正法律案ヲ一括シテ議題ニ致シマス、其第一讀會ヲ開キマス、大藏大臣

第三 明治三十九年法律第三十四號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

明治三十九年法律第三十四號中改正法律案

第二條中「無記名札付證券」ヲ「無記名證券」ニ、記名札付證券ヲ「記名證券」ニ改ム

第四條中「一箇月間之ヲ停止ス」ヲ「一箇月ヲ超エサル期間之ヲ停止スルコトヲ得國債ノ登錄除却ニ付亦同シ」ニ改ム

第九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ割引ノ方法ヲ以テ發行シタル國債ノ消滅時効ハ五箇年ヲ以テ完成ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大藏省證券條例ハ之ヲ廢止ス

第五 臨時國庫證券法中改正法律案(政)

府提出) 第一讀會

臨時國庫證券法中改正法律案

第三條ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣子爵高橋是清君登壇、拍手起ル〕

○國務大臣(子爵高橋是清君) 唯今上程ニナリマシタル兩改正案ニ就テ、簡單ニ提出ノ理由ヲ説明致シタイト存ジ

マス、從來國債ニ關シマスル法律ノ外ニ、大藏省證券條例ト云フモノガゴザイマシテ、大藏省證券其他割引ノ方法ヲ以テマシテ發行致シタル國債ニハ、此條例ヲ適用致シ來タノデゴザイマス、其結果ト致シマシテ取扱ガ區々ニ涉リ、又往々其所有者ニ不便ヲ感ゼシメタルノ遺憾ガアツタノデゴザイマス、今回會計法ノ改正ノ機會ヲ以テマシテ、此大藏省證券條例ヲ廢止シマシテ、其結果國債ニ關スル法律ニ必要ナル改正ヲ加フルコト、致シタノデゴザイマス、又法規ノ統一ヲ圖ル爲メニ、臨時國庫證券法ニ改正ヲ加フルコトニ致シマシタ、何卒御審議ノ上、協賛ヲ與ヘラレシコトヲ希望シマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 右兩案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

第四、第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 日程第三及第五ノ兩案ヲ一括シテ、政府提出會計法改正法律案外一件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成ノ聲起ル

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(奧繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第七、大正五年法律第四號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、大藏次官

第七 大正五年法律第四號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

大正五年法律第四號中改正法律案

「四億八千萬圓」ヲ「五億八千萬圓」ニ改ム

〔政府委員神野勝之助君登壇、拍手起ル〕

○政府委員(神野勝之助君) 本法ハ大正三年臨時事件費支辨ニ關シマシテ、借入金ヲ爲シ、或ハ公債發行ヲ爲スコトヲ得ルノ件デゴザイマスガ、今回臨時軍事費ノ追加ニ件ヒマシテ、其發行制限額ヲ擴張スルノ必要ガアルノデゴザイマス、ソレレデ一億圓ヲ増加致シマシテ四億八千萬圓以內トアルノヲ、五億八千萬圓以內ト改正致シタイト云フノデアリマス、御審議御協賛ヲ願ヒマス

○議長(奧繁三郎君) 日程第八、右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 委員ノ數ハ特二十八名トシ、議長ニ於テ指名アラシコトヲ望ミマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

○議長(與繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

○議長(與繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

第九 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

朝鮮事業公債法中改正法律案

「前項」ヲ「前二項」ニ改メ六百五十萬圓ヲ「二億三千六百萬圓」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十一 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

臺灣事業公債法中改正法律案

第一條中「一億六千二百萬圓」ヲ「一億五千五百六十萬圓」ニ改ム

第十三 樺太事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

樺太事業公債法中改正法律案

第一條中「千二百五十萬圓」ヲ「千九百六十萬圓」ニ改ム

線平壤炭礦線ノ鐵道建設改良費、及仁川海關工事費ニ於キマシテ、物價騰貴ノ爲メニ大正十年年度額額ニ於テ合計六百七十五萬圓ノ追加ヲ要スルコト、ナリマシタ、又朝鮮ニ於キマシテ新ニ煙草專賣制度ヲ始メルコトニ致シマシテ、大正十年年度以降三箇年度間ノ繼續費總額千七百三十二萬圓ヲ支出スルコトニ致シマシテ、合計二千四百四十萬圓ヲ國債支辨トスルコトニ致シタリマス、隨テ現行ノ法定起債額ヲ二億三千六百六十萬圓ニ改正シタリマス、又ノデアリマス、次ハ臺灣事業公債法デアリマスガ、臺灣ニ於キマシテ旅客ノ増加並ニ貨物ノ増加ガ著シクアリマシテ、現在ノ設備ニテハ殆ド其用ヲ爲サナイデアリマス、ソレ故ニ大正十年年度ニ於キマシテ、六百二十五萬餘圓ヲ支出致シマシテ、車輛ノ増備並ニ線路ノ改良ヲ圖ルデアリマス、又臺灣東部地方ニ於キマスル交通機關ノ整備ヲ圖ル爲メニ、大正十年年度以降三箇年度間ノ繼續費ト致シマシテ、二百十萬餘圓ノ鐵道建設費ヲ計上致シマシタ、次ニ縱貫鐵道ノ設備費、大正十年年度額額二百萬圓ヲ追加スルノ必要ガアリマスノデ、以上合計九百三十五萬餘圓ヲ公債財源ニ依ルコト、致シマシテ、現行ノ起債法定額一億六千二百二十萬圓ヲ一億五千五百六十萬圓ニ改正シヤウト云フデアリマス、樺太事業公債法中改正法律案ハ、此度眞岡港ノ修築ヲ爲スコト、致シマシテ、其經費總額二百九十五萬圓ヲ、大正十年年度以降五箇年度ニ互ル繼續費トシテ支出スルコトニ致シマシタ、又大泊榮濱ノ鐵道ハ、從來應急ノ修補ヲ致スニ止ラテ居リマシタガ、之ガ爲メニ輸送力ノ缺乏ヲ感ジマシテ、動モスレバ危險ヲ感ズル場合モアル位デアリマスルカラ、此度根本ノ改良ヲ加ヘルコトニ致シマシテ、大正十年年度以降三箇年度間ノ繼續費總額四百九萬圓ヲ支出スルコトニ致シマシタ、以上合計七百四十萬圓ノ專業費ハ、之ヲ公債支辨ト致シマシテ、現行ノ法定起債額千二百五十萬圓ニ追加致シマシテ、之ヲ千九百六十萬圓ニ改正シヤウト云フデアリマス、ドウソ御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

スルモ、デゴザイマス、從來ハ海軍採炭所ニ於テ、海軍所用ノ石炭ノ採掘事業ヲ行テ居リマシタガ、右ノ外從來別ニ經營ヲ致シテ居リマシタ、煉炭製造事業ヲ之ニ合セマシテ、新ニ經營スルベキ艦船用燃料油ノ製造ヲモ之ニ合併致シマシテ、來年度ヨリ海軍燃料廠ヲ設ケマシテ、從來ノ海軍製炭所特別會計ヲ擴張シテ、海軍燃料廠特別會計ニ改メヤウト云フデアリマス、而シテ之ニ要スル據置運轉資本ハ二百萬圓ト致シマシテ、現ニ海軍採炭所ニ屬シテ居リマスニ據置運轉資本十萬圓ヲ之ニ充テマシテ、其不足分ハ漸次一般會計カラ繰入レル計畫デアリマス、第二ハ印刷局據置運轉資本ノ増額デアリマス、印刷局ノ據置運轉資本額ハ現在四十七萬圓デアリマス、同局事業ノ増進並ニ物價騰貴ニ依リマシテ、從來ノ據置運轉資本ニテハ其經理ヲ爲スニ堪ヘマセスカラ、大正十年度カラ之ヲ百萬圓ニ増加致シマシテ、其差額ハ一般會計ヨリ之ヲ繰入レル計畫デアリマス、海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案ハ、唯今申シマシタ海軍燃料廠設置ノ爲メニ作業會計法中ニ改正ヲ加ヘル法律ト關聯致シテ居ルノデアリマス、海軍ニ於テ海軍燃料廠ヨリ燃料ヲ買入レル場合ニ於テハ、前金拂ヲ爲ス途ヲ開キマシテ、海軍燃料廠特別會計ニ於ケル資金運轉ヲ圓滑ナラシメントスルノデアリマス、御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

○與村安太郎君 議長

○議長(與繁三郎君) 日程第十七ニ對シマシテ質疑ガアリマス—與村安太郎君

○與村安太郎君 第十七ノ海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル件ニ就キマシテ、海軍大臣ニ伺ヒタイト思ヒマス、我國ノ海軍燃料問題ニ就キマシテハ、非常ナル決心ヲ以テ、熱烈ナル研究ヲセヌケレバナラスノデゴザイマス、爰ニ私ガ燃料ト謂フノハ、燃料油ノコトデアリマシテ、現在海軍ノ使テ居ル所ノ煉炭ノコトヲ申スノデアリマシテ、デゴザイマス、煉炭事業ノ如キハ海軍ニ小サイ事業デゴザイマシテ、一ノ會社ニ經營セシメテモ宜イノデゴザイマス、別段海軍ノ大ナル力ヲ要スルト思ヒマス、ソレヨリ今日ノ場合ハ、一意専心燃料油ニ對シテ猛烈ナル熱心ナル調査研究ヲ致シマシテ、所謂自給自足ノ途ヲ立テナケレバナラス次第デゴザイマス、現在世界ノ石油政策ノ有様ヲ申シマスレバ、英國ニ於テモ、米國ニ於テモ、或ハ佛蘭西、伊太利ニ於テモ、何レモ絕對閉鎖主義ヲ執リマシテ、株券スラ外國人ニ持タスコトハシナイノデゴザイマス、其英米ニ於テハ何レモ自分ノ領地ニ於テハ、熱烈ナル調査ヲ致シテ居リマス、此頃ニ至リマシテハ、支那方面マデ手ヲ染メテ居ルノデゴザイマス、何レモ之ニ就テハ非常ナル研究ヲ致シマシテ、彼ノ世界ニ於ケル

六割マデノ産油ノアリマス所ノ亞米利加ニ於テスラ、今日デハ禁油—油ノ輸出ヲ止メルベク、大統領ニ迫テ居ルト云フ次第デゴザイマス、ソコデ我國ハドウデアアルコト申シマスレバ、一箇年ニ僅ニ三十萬噸、世界ノ五十分ノ一ニ過ギナイ採油ヨリナイノデゴザイマス、是ハ今日ハ悉ク機械又ハ動力ニ消費シテ居ルト云フ話デアリマス、八八艦隊完成ノ曉ハ僅ニ三晝夜ヨリ之ヲ用井ルコトガ出來ナイサウデアリマス、實ハ米國モ十年前マデハ僅ニ少額ノ採收ニ過ギナカッタノデゴザイマス、今日ハ海軍ニ強イカヲ以テ採油ヲヤリマシタ結果、今日ニ至リテデゴザイマス、此事ニ就キマシテ、政府ノ御意見ガ秘密デナイ限り伺ヒタイト思ヒマス、ドウ云フ御考ヲ持テ居ラレルカ、ソレカラ獨逸ハ戰爭中ニ、自動車飛行機又ハ潛航艇ニ多量ノ液體燃料ヲ使テ居タト云フ話デアリマス、此獨逸ノ液體燃料ガ石油デナクシテ、石炭ヨリ低溫乾溜法ニ依リマシテ得タル所ノ燃料油デアッタト云フ話デアリマス、此事ニ就テ政府ハ研究シテゴザルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイトデゴザイマス、勿論日本人ハ研究能力ノ非常ニ強イ國民デアリマス、實ニ發明的天才ノアルコトハ過日モ此席デ述ベマシタガ、打棄テ置イテハイケナイノデゴザイマス、少シ誰カ、後援シテヤラセレバ、日本人ノ腦量ハ決シテ外國人ニ劣ラナイノデアアル、英國ガ一番腦量ガ重クテ、其次ガ獨逸デ、次ガ日本人、ソレカラ佛蘭西、亞米利加上ニ云フ風ナ順ニナルト云フ話デアリマス、斯ノ如ク腦量ニ於テハ、日本人ハ決シテ外國人ニ劣ラナイノデアリマス、ソレヲ採用セヌト云フ御考デアリマス、別ニ西洋ノ方ノ發明ヲ待タズシテ、日本人ハ之ヲ研究スルト云フ御考デアリマス、之ヲ伺ヒタイト、ソレカラ石炭ノ燃料トスル場合ニハ、其活動熱力ガ三四割ヨリ使フコトガ出來ナクシテ、残りノ六七割ハ逃ゲテシマウ、消散シテシマウト云フ話デアリマス、近頃ノ科學ノ進歩ニ依リマシテ、光ヲ以テ熱量ニ變ズルコトガ出來ルト云フコトヲ屢、聞イテ居リマス、其外ニ太陽熱ヲ用井ルカ、風力ヲ用井ルカ、波力ヲ用井ルカ、又水壓ヲ用井テ、動力ト爲シ得ルト云フコトデアリマス、是モ御研究ニナテ居リマス、サナイノデアリマス、ソレカラ石炭及石油ノ量ハ減ジマシテ、五十年程ヨリ無イト云フコトヲ聞イテ居リマス、之ニ對シテ政府ノ御調査ガゴザイマシタカドウカト云フコト、ソレカラ次ニ樺太ノ石油問題デアリマス、是モ秘密ニ屬シタモノデアリマス、強テ伺ヒタイト思ヒマス、併シ御漏シスルコトガ出來マスレバ、ソレダケヲ伺ヒタイトデアリマス、日本ノ樺太ノ石油ハ非常ニ有望ナモノデアルト云フ話ガゴザイマシテ、近頃ハ大變此事ニ一般國民ガ注目ヲ致シマス

○議長(與繁三郎君) 海軍大臣

○國務大臣(男爵加藤友三郎君) 與村君ノ御質問ニ御答致シマス、御質問ノ箇條ガ全部明瞭ニシ兼ネテ點モアリマス、併シ大體ノ御趣意ハ了解シテ居ルヤウデアリマス、私ノ了解シテ居リマスル意味ニ於キマシテ、御答ヲ試ミタイト存ジマス、第一ニ此日本ハ油田ガ少ナイ、即チ石油政策ト云フガ如キ事ヲドウスルノコト云フノガ、御趣意デアラウト思フノデアリマス、海軍ノ關シマスル限リニ於キマシテハ、今日ハ御話ノ如ク、日本ニ於ケル石油ノ少ナイコトハ御話ノ通りト信ジテ居リマス、故ニ海外ヨリ輸入致シマシテ、之ヲ貯藏スルト云フ方針ヲ今日ハ執テ居ルノデアリマス、而シテ内地ニ於ケル石油ハ、必要ニ際シマシテハ之ヲ購入スル場合モアリマセウケレドモ、今日ハ成ベク海外ノ輸入ヲ待テ、之ニ依リテ所要ノ數量ヲ充テス考デアリマス、ソレ以上ニ尚ホ進ンデ石油政策ト云フガ如キモノニ就キマシテハ、如何ナル方法ニ依リガ宜イカト云フコトハ、目下主務省ト協議研究中ニ屬シテ居リマス、其次ニ此代用品ニ就テノ御話ガアツヤウデアリマス、即チ先般ノ戰役中、獨逸ハ石油デナイ他ノ代用品ヲ使用シタイト云フコトヲ聞クガ、日本ニ於テモ之ヲ研究シテ居ルカドウカ、研究シテ居ルナラバ、其成績如何ト云フガ如キ御質問デアツヤウデアリマス、是ハ所謂低溫乾溜即チ「コールタール」カラ重油ヲ取ル御話デアラウト思フ、此問題ハ數年前ヨリ研究ヲ致シテ居リマス、海軍ニ於キマシテモ研究致シテ居リマス、民間ニ於テモ研究致シテ居リマス、又九州大學ニ於テモ研究サレテ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマス、是等ノ各方面ニ於キマシテハ、互ニ聯絡ヲ取リテ研究ヲ進メ、今日ニ於キマシテハ、或程度マデハ實用ニ供シ得ルト云フ成績ヲ得テ居リマス、併ナガラ之ヲ實際ニ應用致サウト云フ場合ニハ、經濟上果シテ其結果ヲ得ルヤ否ヤト云フコト、今日ハ疑問ニナテ居リマス、即チ代用品其物ハ出來得ルト致シマシテモ、ソレ以外ノ副産物ノ方ガ大部分ヲ占メテ居ル、而シテ正副産物ヲ如何ニ捌クカト云

フコトガ問題デアラウト思ウテ居リマス、是等ノ點ヲ將來如何ニスルカト云フコトハ、目下研究中ニ屬シテ居リマス、其外總テ發明ト云フガ如キモノニ就テハ、外國テ成攻シタモノヲ待ツノカ、日本ハ日本自ラ進シテヤル氣カ、ドウカト云フ御話モアツクヤウデアリマス、吾々ハ外國ノ研究シタ成績ヲ得ルコトニモ怠ラナイ積リデアリマス、同時ニ爲シ得ル限リ研究ハ今日ニ於テモ致シテ居リマス、將來ニ於テモ益、此方面ニ向テ努力スル考デアリマス、ソレカラ樺太ノ事ニ就テノ御話ガアリマシタガ、樺太ニ就キマシテハ、何事モ今日ハ調査研究ニ屬シテ居リマス、是以上ハ申上ゲルコトハ出來マセヌ拍手

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十六第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 日程第十五及第十七ノ兩案ハ一括シテ委員ノ數ヲ九名トシ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマス  
○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ  
○議長(與繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十九執達吏規則中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス—司法次官

第十九 執達吏規則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

執達吏規則中改正法律案  
執達吏規則中左ノ通改正ス  
第十九條中「四百五拾圓」ヲ「六百圓」ニ改ム

本法ハ大正十年分ヨリ之ヲ適用ス但シ執達吏規則第二十條ノ規定ノ適用ニ付テハ大正九年八月一日以後恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタルモノニ付之ヲ適用ス

〔政府委員鈴木喜三郎君登壇〕

○政府委員(鈴木喜三郎君) 唯今議題ニ上リマシタル執達吏規則中改正法律案ノ理由ヲ申上ゲマス、現行執達吏規則第十九條ニ規定シテアリマス補給金額ハ、今日ノ經濟事情ニ照シテ少額ニ失シテ居ルノデゴザイマス、加之昨年發布セラレマシタル法令ノ規定ニ依リテ、現今ノ執達吏ノ受クベキ恩給率ニ不權衡ヲ來シタト云フコトヨナリマスニ依リテ、大案ヲ提出シマシタル次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ願ヒマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 日程第二十右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 本案ハ曩ニ大導寺慶男君提出ノ民事訴訟費用法中改正法律案ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成ノ聲起ル

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ通り決シマシタ、日程第二十一獨逸國等ノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入税免除ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第二十一 獨逸國等ノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入税免除ニ關スル法律案 第一讀會

〔政府提出〕

獨逸國等ノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入税免除ニ關スル法律案  
獨逸國等ノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ニシテ政府ノ輸入スルモノノ輸入税ハ之ヲ免除ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員神野勝之助君登壇〕

○政府委員(神野勝之助君) 平和條約ニ基キマシテ、獨逸國等ヨリ我國ガ受領ルベキ賠償金ヲ整理致シマスル爲メニ、特別會計ガ設ケテアルノデアリマス、其賠償金ハ現物ヲ以テ受取ルモノガアルノデアリマス、我國ニ於キマシテハ船舶、染料、藥品等デアリマス、是ハ極ク臨時ノモノデアリマシテ、又輸入税ヲ拂ヒマシテモ、均シク國カラ國へ收納スルノデアリマスルカラ、此物ハ輸入税ヲ免除致シタイト云フ法律案デアリマス、御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス  
○議長(與繁三郎君) 日程第二十二、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第二十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 委員ノ數ハ特二十八名トシ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ  
○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十三第二十五ハ關聯セル議案デアリマスカラ、一括議題ニ供シマス、御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第二十三大學特別會計法案、日程第二十五大正八年法律第十二號中改正法律案ヲ一括シテ議題ニ供シ、其第一讀會ヲ開キマス—中橋文部大臣

第二十三 大學特別會計法案(政府提出) 第一讀會

大學特別會計法案

大學特別會計法

第一條 帝國大學ハ各別ニ、其ノ他ノ官立大學ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テ資金ヲ所有シ政府ノ支出金、資金ヨリ生スル收入、授業料、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ一切ノ支出ニ充テシム

第二條 前條ノ政府支出金ハ東京帝國大學ニ在リテハ毎年度二百九十五萬三千三百五圓、京都帝國大學ニ在リテハ毎年度百七十一萬五千四百二十八圓トシ其ノ他ノ帝國大學及官立大學ニ在リテハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルヘシ

第三條 各帝國大學及官立大學ノ資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄附シタル動産及不動産並歲入殘餘ヨリ成ル但シ官立大學ニ在リテハ第七ノ施行豫算ノ歲入殘餘ニシテ資金ニ編入シタルモノハ官立大學毎ニ區分シ之ヲ整理スヘシ

第四條 大學ノ歲出ニ充ツル必要アルトキハ其ノ資金ヲ支消スルコトヲ得但シ用途指定ニ係ル資金ニ付テハ用途指定者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條 政府ハ毎年各帝國大學及官立大學ノ特別會計ノ歲入豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 大學特別會計ノ豫算中ニハ豫備費ヲ設ケヘシ但シ東北帝國大學九州帝國大學北海道帝國大學、

及官立大學ノ特別會計豫算ニ在リテハ此ノ限ニ在ラ  
ス

第七條 文部大臣ハ歳入歳出豫算決定ノ後豫備費ヲ  
除クノ外各大學毎ニ歳入歳出ノ施行豫算ヲ調製シ

當該大學ノ總長又ハ學長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

文部大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項以外ノ者ヲシ

テ歳入歳出豫算ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得

第八條 大學ニ於テ外國ヨリ直接ニ圖書、機械、標本

又ハ實驗用材料ノ買入ヲ爲ス場合ニハ前金拂フ爲ス

コトヲ得

第九條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其

ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第十條 獎學ヲ目的トスル寄附金ハ之ヲ當該大學ニ交

付シ總長又ハ學長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第十一條 委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院

第十二條 官立大學ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歳出ヲ支

辨シ別ニ政府支出金ヲ要セザルニ至リタルトキハ當該

大學ノ爲ニ特別會計ヲ設クルモノトス

第十三條 大學特別會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ

勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 官立大學ノ創設費ハ第一條ノ規定ニ拘ラ

ス一般會計ノ所屬トス

第十五條 官立大學特別會計ノ設置及官立大學ノ創

設ニ付一般會計及學校及圖書館特別會計ニ關涉

シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

帝國大學特別會計法及大正七年法律第四號ハ之ヲ廢

止ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

他ノ法律ニ於テ帝國大學特別會計法トアルハ大學特別

會計法トス

仙臺高等工業學校ノ設置ニ付東北帝國大學特別會

計及學校及圖書館特別會計ニ關涉シ必要ナル規定ハ

勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五 大正八年法律第十二號中改正

法律案(政府提出) 第一讀會

大正八年法律第十二號中改正法律案

大正八年法律第十二號中左ノ通改正ス

「工學部ノ擴張ヲ爲スヲ」工學部ノ擴張並傳染病研究所

ニ於ケル研究事項增加ニ「百八十八萬圓ヲ」二百四

「八十三萬二千二百七十一圓」ヲ「百六萬五千六百五十

二圓三」帝國大學特別會計法第二條ヲ「大學特別會

計法第二條三」擴張ニ件ヒテ「東京帝國大學及京都

帝國大學ノ擴張ニ件ヒテ」改ム

「國務大臣中橋德五郎君登壇、拍手起ル」

○國務大臣(中橋德五郎君) 此大學特別法案ヲ提出致

シマシタノハ、從來帝國大學特別法案ト云フモノノ實行致シ

テ來マシタガ、今度單科大學ガ出來マシタニ就キマシテ、綜

合大學ニ對スルモノト、單科大學ニ對スルモノト一括シテ、

大學特別會計法案ヲ提出シテ譯デアリマス、尙ホソレヲ加

ヘマシテ、今回東京京都兩帝國大學ニ對シテ定款ヲ增加

致シマスノデ、其繰入ノ爲メニ此改正ヲ致ス譯デアリマ

ス、ソレカラ次ニ大正八年法律第十二號中改正法律案、是

ハ東京帝國大學京都帝國大學ニ於キマシテ、精神病室ノ

新營ヲ致シマス、又傳染病研究所ノ建物ノ新築ヲ致シマス、

ソレカラ今回臨海實驗所ヲ設ケテ、地質礦物學ノ講室ノ新

營費ヲ補足致シマス、又醫學部ノ擴張ヲ致シマスノデ資金

ノ繰入ヲナスガ爲メニ、此改正ヲ要スル譯デアリマス、ドウソ

御審議ノ上御賛成ヲ願ヒマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 右兩案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ

選舉ヲ議題ニ供シマス

第二十四、第二十六 右議案ノ審査ヲ付託

ス(キ委員ノ選舉

○岩崎勳君 日程第二十三及第二十五ノ兩案ヲ一括シ

テ、委員ノ數ヲ九名トシ、議長ニ於テ指名アラソコトヲ望ミ

マス

「贊成」ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌ

カ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如

ク決シマシタ、日程第二十七帝國鐵道會計法中改正法律

案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス——委員長穴水要助君

第二十七 帝國鐵道會計法中改正法律案

(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長

報告書

一帝國鐵道會計法中改正法律案(政府提出)

大正十年二月七日

帝國鐵道會計法中改正法律案委員長

穴水 要七

衆議院議長奧繁三郎君

「穴水要助君登壇、拍手起ル」

○穴水要助君 唯今議題ニ出マシタ帝國鐵道會計法中

改正法律案ノ委員會ノ經過、及結果ヲ御報告致シマス、委

員會ハ三回開キマシテ、國務大臣及政府委員ト質問應答

ヲ重ネマシタ、本改正案ノ趣旨ヲ極メテ簡單ニ申上ゲマス、

現行法ハ明治四十二年ノ制定デアリマシテ、爾來鐵道事

業ノ膨脹ハ其當時ト比較致シマスルト、建設改良費デ七

倍ノ增加ヲ致シテ居リマス、隨テ鐵道ノ用品資金ノ擴充、

及豫期セザル事業費ノ支出上必要ニ應ズル方法、及一般

會計法其他ノ法律改正ニ件ヒマシテ、今回ノ改正ヲ必要

トスルモノデアリマス、委員會ニ於テ委員ノ一人ヨリ法ノ運

用ニ就キマシテ、詳細ナル細心ナル注意ヲ拂フベキ希望ガア

リマシテ、全會一致政府提出ノ原案通り可決致シマシタ、

此段御報告ヲ致シマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御

諮リ致シマス

「岩崎勳君(第二讀會ヲ開クニ異議ナシ)ト呼フ」

○議長(奧繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセ

ヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第二

讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ

省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定セラレンコトヲ望ミ

マス

「贊成々々」ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌ

カ

「異議ナシ」異議ナシノ聲起ル

○議長(奧繁三郎君) 御異議ガ無ケレバ、第三讀會ヲ省

略シテ可決確定シマス、日程第二十八市町村義務教育費

ヲ開キマス

帝國鐵道會計法中改正法律案 第二讀會(確定議)

國庫負擔法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、委員長守屋松之助君

第二十八 市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案(守屋松之助君外二名提出)

第一讀會

市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案

市町村義務教育費國庫負擔法中左ノ通改正ス

第一條中「費用ノ一部ヲ」費用ノ全部ニ改ム

第二條 削除

第三條 削除

第四條 削除

〔守屋松之助君登壇、拍手起ル〕

○議長(奥繁三郎君) 守屋君ハ本案ノ提出者デゴザイマス

○守屋松之助君 唯今議題トナリマシタ市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案ニ就キマシテ、暫クノ間説明致シマス、本案ハ去ル一月二十九日ノ本議場ニ於テ上程ニナリマシタル、國民黨及憲政會ヨリ御提出ニナリマシタル、市町村義務教育費國庫負擔増額ニ關スル建議案ヲ更ニ一歩進メマシテカラン、國庫ノ負擔スベキ金額ヲ具體的ニ現ハシマシタ所ノ案デアリマス、即チ同法ノ第一條中ノ條給ニ關シテ「費用ノ一部」トアリマスノヲ「全部」ト改正致シマシテ、此改正ニ依リマシテ、第二條、第三條、第四條ヲ削除致シタノデゴザイマス、本法ヲ改正致シマス理由ト致シマシテハ、大體ニ於テハ右建議案ニ於テ、國民黨ノ土井君、並ニ憲政會ノ高田君ヨリ、詳細ナル御説明ガゴザイマシタガ如ク、小學校教員ノ優遇ノ途ヲ開クコトガ第一ノ要件デアリマス、第二ハ現下ノ地方自治體ニ於ケル財政ノ窮乏ヲ救フト云フコトガ、第二ノ要件デアリマシテ、此ニツノ趣旨ニ就テハ、本員ハ全然賛成ヲ致スモノデアリマス、爰ニ本員ガ特ニ教員給ノ全部ヲ國庫ヨリ負擔シナケレバナラヌト云フコトニ就キマシテハ、聊カ説明ヲ要スルコト、思ヒマス、簡單ニ説明致シマスカラ、暫ク御聽取ヲ願ヒタイト有ジマス、今國庫ガ教員給ノ一部分ヲ負擔シテ居ル場合ヲ、假リニ本法發布ノ年次、即チ大正七年ニ於ケル教員給ノ總額ニ對シマシテ、國庫ノ支出額ハ即チ一千万圓デアリマス、此一千万圓ニ對シマシテ、其當時ノ俸給總額ニ對スル割合ハ、二十「パーセント」ニ當ルデアリマス、即チ二割ニ當テ居ルデアリマス、此二割ヲ標準ト致シマシテ、本年大正九年度ニ於ケル教員總額ニ對スル國庫ノ負擔スル金額ヲ打算致シマシマスレバ、正ニ二千万圓シカ拂ハヌデアリマス、今日地方自治體ニ於ケル此窮乏シテ居ル財政ヲ、僅カニ二千万圓ヲ以テ救

濟スルコトハ、到底出來ナイデアリマス——此狀態ヲ到底救濟スルコトハ出來ナイデアリマス、本年度ニ支拂ハレタル教員給ノ總額ハ、地方全部ノ總額ニ對シテ約十六「パーセント」、即チ一割七步ニ當テ居ルデアリマスカラ、之ヲ現今國庫ガ負擔スル最大限度ヲ進メ、即チ教員給ノ全額ヲ國庫ガ負擔スルト致シマシテモ、市町村ノ現狀ヲ救濟スルニハ、ドウシテモ少クトモ是ダケノ金ヲ要スル、即チ教員給ノ全部ヲ負擔シテモ、過大デナイト云フコトハ確デアリマス、次ニ小學校教員ノ待遇ニ就テ、眞面目ニ一言致シタイ事ガアルデアリマス、ソレハ義務教育ノ件デアリ、教員ノ良イ惡イコトハ、今更申スマデモアリマセズガ、現在小學校教員ノ地位ノ保障ガ、如何ニモ二重ノ束縛ガアルカノ如キ感ガアルデアリマス、昨年教員俸給令ノ改正ガアリマシテ、其改正ニ依テ、形而上ニ於テハ教員ノ身上ニ就テ確ニ相當ナル安定ヲ與ヘタルノ、相當ニ優遇ノ途ガ開カレタデアリマスガ、茲ニ遺憾ナリハ市町村ニ於テハ、極メテ切詰メテアル財政デアリマスカラシテ、是ダケノ相當ノ效果ヲ舉ゲルコトハ、市町村ハ非常ナル熱望ヲ以テ、昨年教員俸給令ノ改正ニ對シテ、相當ナル教員給ヲ拂ハント致シテ居リマシタケレドモ、町村ノ財政ガ窮乏致シテ居ル結果トシテ、地方教育ノ行政ヲ取扱テ居ル所ノ郡當局或ハ郡視察アタリト、此町村當局或ハ理事者ノ間ニ於テ、教員ノ配當上ニ常ニ意見ノ相違ガアルデアリマス、即チ教員ノ配當上ニ於テ、町村ノ利害關係ト郡ノ當事者トノ間ニ於テ、意見ノ相違ガアルデアリマス、此意見ノ相違ト云フモノハ、即チ教員ガ町村理事者ト郡ノ當局ノ間ニ介在シテ居ル關係カラシテ、自分ノ身上ニドウシテモ安心ガ出來ナイト云フ位地ニ居ルコトハ確カデアリマス、近來義務教育國庫負擔增加ニ關スル聲ガ、町村ノ理事者以外ニ教員ノ方面カラ非常ニ高マシテ來タト云フコトハ、確ニ此消息ノ一面ヲ窺フコトガ出來ルデアリマス、大體何レノ職業ニ従事スル者ニシテモ、自己ノ身上ノ安定ヲ得ズシテ、十分ナル働ハ出來ナイデアリマス、即チ完全ナル働ハ出來ナイデアリマス、斯様ニ身上ノ不安ヲ來シタ場合ニ於テハ、必ズヤ教育ノ任ニ當ル所ノ教員ガ、教ヘテ居ル兒童ノ上ニ影響ヲ及ボスデアリマス、即チ大ナル感化ガアルデアリマスカラ、此感化ハ國家ノ爲メニ少カラザル損失トナテ居ルデアリマス、故ニ國家ガ劃一シテ理想ノ教育ヲ施シ、大切ナル國民性ヲ養成シヤウトシテモ、此教員ガ不安ノ狀態ニ在テ場合ニハ、ドウシテモ實際ノ國民教育ヲ施スコトハ出來ヌト云フコトニ歸着スルデアリマス、即チ教員給ノ——教員ノ俸給ヲ國庫ニ於テ全部負擔スルコトニシタイト云フノハ、此ニ一ノ理由ガアルデアリマス、

又次ニ教員ノ素質ノ改良ニ就テ申上ゲマス、教員ノ現在ハ貧弱ナル町村ノ財政ノ下ニ在リマスカラシテ、勢ヒ此教員ノ素質ノ不良ト云フコトヲ論ゼズシテ、詰リ教員ノ頭數ヲ揃ヘルコトニ就テ、教育行政ニ在ル者ハ主ニ苦心ヲシテ居ルデアリマス、此苦心ノ結果トシテ、現在地方ニ居ル教員ハ如何ナル狀態ニ在ルカト申シマシレバ、大抵其割合ハ正教員ガ約七割、准教員代用教員ガ約三割トナテ居リマス、斯様ナ狀態デアリマシテ、強チ此准教員代用教員ガ正教員ヨリ劣テ居ルト云フコトハ申シマセヌケレドモ、教員ノ社會的地位ガ向上スルニ從テ、ドウシテモ社會的地位ヲ向上セシムルニハ、教員ノ品位素質ノ改良ト云フコトガ必要デアリマス、此教員ノ品位素質ノ良好ナル者ヲ得ヤウトスルニハ、之ヲ國庫ノ負擔ニ依テ教員給ヲ支拂フ場合ト、市町村ノ負擔ニ依テ教員給ヲ支拂フ場合トニ於テハ、確ニ奉職スル教員ノ頭ニ於テ一種言ハレザル——一種言ハレザル精神のノ感ヲ受ケルデアリマス、斯ル場合ニ於キマシテ、教員ニ對スル精神のノ待遇ノ一助トナル方法トシテハ、矢張給料ヲ國庫負擔ト致スコトガ相當デアルト私ハ信ズルデアリマス、以上述ベマシタ所ノ要點ニ就テ考ヘマス、歐洲戰爭後ニ於ケル我國ノ思想界ノ變化ハ非常ナモノデアリマシテ、此思想界ノ變化ニ依テ第一感染スル所ノ者ハ、吾ガ養成スル所ノ兒童ノ教育デアリマス、兒童ニ對シテ教員ハ朝ニ夕ニ接觸シテ居リマシテ、感化ヲ與ヘテ居ル者デアリマスカラ、教員ノ素質ノ良否、教員ノ身上ノ安定ト不安定ト云フコトハ、直チニ兒童ノ上ニ非常ナル感化ヲ及ボスコトデアリマスカラシテ、此負擔法ノ改正ト云フコトハ、急務中ノ急務ト信ズルデアリマス、又教員ノ待遇ニ於テ一ノ新生命ヲ開クコトニナリマシレバ、即チ市町村ニ於ケル財政ノ枯竭ヲ救濟スルコトガ出來ルト共ニ、「分リマシタ」ト呼フ者アリ、自治體ノ面目ヲ保持スルコトガ出來ルト私ハ信ズルデアリマス、ソレ故ニ茲ニ本案ヲ提出致シマシテ、偏ニ諸君ノ慎重ナル御審議ヲ願ヒタイト信ジマス(拍手起ル)

○岩崎勳君 本案ハ砂田重政君外二名提出、小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外二件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔贊成(贊成ト下呼フ者アリ)〕

〔異議ナシ(異議ナシト下呼フ者アリ)〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタリ、日程第二十九公務員ノ行為ニ依ル損害賠償及冤罪者補償金附與ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス提出者上島益三郎君



第二十九 公務員ノ行爲ニ依ル損害賠償

及冤罪者補償金附與ニ關スル  
法律案(上島益三郎君提出)

第一讀會

公務員ノ行爲ニ依ル損害賠償及冤罪者補償金附與ニ關スル法律案

第一條 國、府縣、郡、市、町、村其ノ他公共團體ハ其ノ被用者ノ行爲ニ付民法第三編第五章ノ規定ニ從ヒテ損害賠償ノ責ニ任ス

官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其ノ他ノ職員及一切ノ被雇人ハ前項ニ定メタル被用者トス

第二條 裁判所ハ無罪又ハ免訴ノ判決ヲ爲スニ方リ冤罪タルコトノ確信ヲ得且被告人カ不良ナル素行ニ因リ又ハ訴追前後ノ不謹慎ナル行動ニ因リ犯罪ノ嫌疑ヲ招キ若ハ之ヲ深カラシメタルニ非サルコトヲ認定シタルトキハ其ノ自由ナル意見ヲ以テ被告人ニ補償金ヲ附與スルコトヲ得

前項ノ補償金ハ被告人ノ職業、地位殊ニ未決勾留ノ爲ニ受ケタル生活上ノ困難ヲ斟酌スヘシ  
補償金ハ裁判所無罪又ハ免訴ノ判決ト同時ニ之ヲ言渡スヘシ

第三條 前條ノ規定ハ豫審判事カ免訴ノ決定ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

檢察カ現行犯豫審ノ爲勾留シタル被告人ヲ釋放シ起訴ノ手續ヲ爲サルコトニ決定シタルトキハ前條ニ準シ被告人ニ補償金ヲ附與スルコトヲ得

第四條 前二條ニ依リ被告人ニ附與スヘキ補償金ノ標準ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(上島益三郎君登壇、拍手起ル)

○上島益三郎君 簡單ニ理由ヲ申上ゲマス、「贊成」ト呼フ者アリ)本案ノ第一ハ公務員ノ不法行爲ニ依リテ、國家ノ損害賠償ノ責任ヲ負擔セシムルガ目的デアリマス、何人ト雖モ自己ノ直接ノ行爲ニ依リ、若クハ自己ノ使用スル雇人ノ行爲ニ依リテ、不正ニ他人ニ損害ヲ被ラシメタル場合ニ於テ、之ヲ賠償スルノ責任アリト云フコトハ、民法ノ明定シテ居ル所ノ原則デアリ、然ラバ國家ハ其雇人タル官吏ガ不法行爲ヲ爲シテ、一箇人ニ損害ヲ被ラシメタル場合ニ於テ、宜シク此原則ニ從テ賠償ノ責任ヲ負擔スルノガ、是ハ洵ニ理ノ當然デアリマス、辯ヲ俟タズシテ明カナル所デアリマス、(拍手起ル)所ガ今日ノ制度ニ於テハ、國家ハ一切此責任ヲ負擔シナイノデアリ、國家ハ一面ニ於テ國民ニ對シテハ、

汝ノ行爲ノミナラズ、汝ノ雇人ノ行爲ニ對シテ責任ヲ負擔セヨト斯様ニ命令シテ、他ノ一方ニ於テハ、但シ自分ダケハ此限ニ在ラズ、斯様ニ言テ居ルノデアリマス、要スルニ斯ノ如キ所ノ矛盾セル行爲ト云フモノハ、畢竟強者ノ權利トシテ之ヲ説明スルノ外、適當ナル言葉ハゴザイマセヌ、今日ハ最早國家ガ斯ル強者ノ權利ヲ行使スベキ時代デアゴザイマセヌ、國家モ宜シク個人ト對等關係ニ就テ、官吏ノ爲シタル所ノ不法行爲ニ依リテ損害ヲ受ケタル者ニハ、宜シク率先シテ十分ノ賠償ヲ爲シ、以テ國民ノ模範トナルベキ時機ガ、既に到著致シテ居ルノデアリマス、是ニ於テカ此原則ヲ法律上ニ確定スル爲メニ、本案ヲ提出シテ次第デアリマス、(分リマシタ)ト呼フ者アリ)ソレカラ第二ハ冤罪者補償ニ關スル所ノ原則ヲ確定シテ求メルノデアリ、多數ノ犯罪事件デアゴザイマスルカラシテ、其中ニハ冤罪者ガ起ルト云フコトハ、是ハ免ル、能ハザル所ノ人生ノ運命デアリ、冤罪者其人ニハ洵ニ氣ノ毒デアゴザイマスルガ、併ナガラズノ如キ事ト云フモノハ、共同生活ノ約束上ノ犠牲デアリマス、此故ニ冤罪者ガ出來タト云フ一事ニ依リテ、國家ガ不法行爲ヲ爲シタリ、國家ガ惡事ヲ爲シタリトシテ、國家ニ賠償行爲ノ責任ヲ認メント欲スルノデアゴザイマセヌガ、併ナガラ一面社會ノ正義ノ上カラ云フト、冤罪者其人ハ畢竟社會ノ犠牲トナッタノデアリ、社會ノ爲メニ代テ其苦痛ヲ受ケタルデアリ、社會ノ爲メニ代テ犧牲トナリ苦痛ヲ受ケタル者ハ、宜シク其損害ハ、社會一般ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ云フコトガ、是ハ正義ノ命ズル所デアゴザイマス、故ニ文明各國殆ド此冤罪者ニ對スル補償ノ制度ヲ有セザルモノハゴザイマセヌ(簡單簡單)ト呼フ者アリ)我國ニ於キマシテハ、此事ハ未ダ政論家ノ口ニハ餘リ上リマセヌ、立法ノ手段トシテハ破天荒ノ事デアゴザイマスカラ、私ハ十分此範圍ヲ縮小致シマシテ、將又國庫ノ經費ノ負擔ノ上ヲモ考慮致シマシテ、冤罪者ガ何等ノ素行ノ不良ナルコトニ依リ、或ハ犯罪公訴ノ前後ノ不謹慎ナル行動ニ依リテ、嫌疑ヲ招クト云フガ如キ落度ノナカク、云フコトヲ條件トシテ、且又其金額モ國庫ノ負擔ニ堪ヘ得ラレルヤウニ、命令ヲ以テ其金額ヲ定メルト云フコトニ致シマシテ、遠慮ニ遠慮ヲ重ネテ、極メテ狹隘ナル範圍ニ於テ本案ヲ提出シテ、諸君ノ御賛成ヲ求ムル次第デアリマス、右様ノ次第デアゴザイマスカラシテ、謹シテ諸君ノ慎重ナル御審議ヲ御願スル次第デアリマス、(拍手起ル)

○岩崎勳君 本案ハ上島益三郎君提出、身元保證ニ關スル法律案ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス  
(「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ)  
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
〔「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(奥繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第三十、刑事訴訟法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者戸水寬人君  
第三十 刑事訴訟法中改正法律案(戸水寬人君外三名提出) 第一讀會  
刑事訴訟法中改正法律案  
第二百三條第一項中「及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ」ト並ニ其事實ヲ認メタル理由及ヒ法令ノ適用ヲ示ス可シニ改ム  
〔戸水寬人君登壇、拍手起ル〕  
○戸水寬人君 刑事訴訟法ノ第二百三條第一項ニ「刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ」ト斯ウ書イテアルノデス、此條文中ノ「及ヒ證據ニ依リテ」云々カラ終リニ至ルマデ悉ク止メテシマヒマシテ、其代リ「並ニ其事實ヲ認メタル理由及ヒ法令ノ適用ヲ示ス可シ」ト呼フ者アリ)サウスルト此第二百三條ノ第一項ノ全文ガ斯ウ云フコトニナル「刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實並ニ其事實ヲ認メタル理由及ヒ法令ノ適用ヲ示ス可シ」斯ウ云フコトニナルノデアゴザイマス、斯ノ如ク修正シタイト云フ理由ヨリ簡單ニ申シマスルガ、是迄ノ刑事ノ判決書ヲ見マスト云フト、動モスレバ形式ニ流レ過ギルノ嫌ガアルノデス、斯ノ如キ形式ニ依リテ裁判ヲスルノハ骨ガ折レル、短イ時間ニ澤山ナ判決書ヲ書クノガ困難デアゴザイマス、ソレデ裁判官ノ能率ヲ増進セシメル爲メニ、斯ノ如キ形式ヲ多少減少スル必要ガアルト思ヒマス、形式ヲ緩和シテ、判決書ノ書キ易イヤウニスル、即チ判決書ノ書方ヲ改メル必要ガアルト考ヘテ居リマス、判決書ノ書方ヲ改メル必要ガアルト云フコトガシナケレバナラナイノデ、今日此法律ノ案ヲ提出シテ次第デアゴザイマス、斯ノ如キ目的ヲ以テ法律ヲ改正スルニハ、此案ノ通り宜シイカ、或ハ又修正ガ必要デアアルカト云フコトガ問題ニナルノデアゴザイマセウ、デ委員會ニ於テハ、研究ノ上研究ヲ重ネテ案ヲ練ルノ必要モアルカ知レマセヌガ、冤ニ角私ハ此案ノ通り宜シイト云フ考デ之ヲ提出シテ次第デアゴザイマス、デドウ御賛成ヲ願ヒマス、(拍手起ル)  
○岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十一ハ提出者ヨリ延期ノ申出ガアリマシタ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ延期ニ決シマシタ、日程第三十二決議案ヲ議題ニ致シマス——提出者尾崎行雄君

第三十二 決議案(軍備制限ニ關スル件)

(尾崎行雄君提出)

決議案

一帝國ノ海軍軍備ハ英米二國ト協定シテ之ヲ制限スルコト

一陸軍軍備ハ國際聯盟規約ニ基キ之ヲ整理緊縮スルコト

右茲ニ決議シテ本院ノ意旨ヲ表明ス

○東武君 一寸議事進行ニ就テ疑義ガアリマス

○議長(與繁三郎君) 何デアリマスカ

○東武君 議事進行ニ就テデアリマス

○議長(與繁三郎君) 今尾崎君ニ發言ヲ許シマシタガ、發言前ニ必要デアリマスカ

○東武君 發言前ニ必要デアリマス

○議長(與繁三郎君) 尾崎君一寸待ッテ下サイ——東武君

○東武君 議席カラ議長ニ一應質問致スノデアリマス、唯

今決議案ナルモノガ議題ニナッタノデアリマス、吾々此議院

法若クハ衆議院規則ヲ色々調ベテ見マスルニ、議院法第五

十二條ニ依リマスルニ云フト、上奏案及建議案ノ動議ハ、

三十人以上ノ賛成者ヲ要スルト云フノデアッテ、又質問モ

左様デアアル、又衆議院規則ノ八十六條ニ於テモ、定規ノ贊

成者ヲ要スルト云フコトニナッテ居ルノデアリマスルガ、此尾

崎君ノ提出シタ決議案ニハ、署名者ガ八名シカアリマセヌ、

サウシテ又決議案ヲ成規ニ據テ提出スルト云フコトガアリ

マスカ、何ノ成規ニ據テ之ヲ提出シタノデアアルカ、論者斯ウ

云フコトヲ言フドラウト思フ、決議案ト云フモノハ議院法ノ

規則ニハ無イ上奏案、建議案ノ規定、其他質問等ニ就テ規

定ハ有ルガ、決議案ノ規定ハ無イカラシテ、是ハ動議ニ依ッテ

取扱ハレテ動議ナラバ、議院法ノ規定ニ依ッテ、一人ノ賛成

者ヲ提出スルコトガ出來ルコトハ、議院法ノ明示スル所デ明

カデアリマス——併ナカラ同ジ動議ニ依ルト云フ取扱ヲスルノハ、衆議院規則違反デアアル、何トナレバ建議案デモ、上奏案デモ、議院法ノ第五十二條ノ命ズル所ニ依リマスレバ、各議院上奏又ハ建議ノ動議ハ、三十人以上ノ賛成者アルヲ要スト云フコトハ、矢張建議案モ動議デアアル、唯ダ此議院法ノ立法ノ精神ハ、事極建建議案モ動議デアアル、議員ノ言論ヲ尊重スルト共ニ、又議員ノ言論ニ就テ責任ノ重大ナルコトニ鑑ミテ、特ニ發議ヲスル場合ニハ、三十人以上ノ賛成者ヲ要スルコトヲ設ケタルハ立法ノ精神デアアル、然ルニ何モ彼モ決議案々々トテ提出スルト云フコトハ、殆ド議院法ヲ無視シ、議員ノ言論ヲ甚ダ放縱ナラシムルモノデアアルト本員ハ考ヘル、議長ハ此成規ニ據リテ提出スルト云フコトハ、何ノ成規ニ據ッテ提出シタカ、ソレヲ御明言ヲ願ヒタイ、是ハ大變ニ議院ノ威嚴ニ關シ、將來ニ關スル事デアリマス

○議長(與繁三郎君) 議長ハ決議案ナルモノハ一ノ動議ト認メテ居リマス、案ノ字ガ添エタルカ重ク感ジマスガ、一ツノ動議デアリマス、故ニ一名以上賛成者ガアレバ、特ニ許シテ居ルノデアリマス、尾崎君ガ成規ニ據リト云フコトヲ書カレタノハ、何ノ事カ分リマセヌガ、(先例ニ依ルノダ)ト呼フ者アリ)成規ト先例トハ違ヒマス、成規ナルモノハ法規ニ依リマス、是ハ文字ガ蛇足デアアルカラト云フノデア、扱ハナイト云フ譯ニ行キマセヌ、(拍手起ル)ソレ故ニ動議トシテ扱ッテ居リマス、之ガ不都合デアアルナラバ、爰ニ新ニ規則ヲ設ケル、規則ノ出來ルマデハ、其通り扱ヒマス、(ヒヤ)ト呼フ者アリ——尾崎行雄君

〔尾崎行雄君發言、拍手起ル〕

○尾崎行雄君 先ツ此決議ニ就キマシテ、其趣意ダケヲ極ク簡單ニ申述ベテ置キマスガ、此決議ノ箇條(一)ツニ分レテ居リマシテ、第一ハ海軍ニ關スル事、第二ハ陸軍而シテ一ツ共其目的ハ、國民ニ代ッテ議院ノ意思ヲ表明スルノニ在ッテ必ズシモ政府ニ——此政府ニ此事ヲシテ吳レト頼ム譯デモナシ此政府ガシテモヨシ、忽チ更レバ次ノ政府ガ致シテモ宜シ、又向フカラ交渉ヲ受クレバ之ニ應ジテモヨシ、他ノ國カラ交渉ニ來ルコトガ遅ケレバ、コチカラ先シテ自動的ニ發言權ヲ執ッテモ宜シ、唯ダ國民ノ意思ヲ爰ニ表明シテ置キサ(スレバ)ドノ政府デモ働ク上ニ於テ便利デアラウ、又他ノ外國政府ガ我國ニ申込ムニ就キマシテモ、幾何カノ都合ガ好カラウト云フ意味デアル、國民ノ意思ヲ發表シテ置クト云フノガ目的デアリマス、而シテ海軍ハ現在世界列國ノ中、有力ナル艦隊ヲ持ッテ居ル、又將來持ツトスルモノハ、差當リ日本、英吉利、亞米利加、此三箇國デアッテ一口ニ五大強國ト言ハル、中ニ於テモ、佛蘭西ト伊太利ハ既ニ海軍國トシテ餘リカヲ入レナイデ此三國ニ對シテハ殆ド對抗ノ氣モ無キ

ガ如ク見エ、又其狀態ニ立ッテ居リマス、此時ニ當ッテ三國ダケガ若シ協議ガ纏リマスレバ、世界ノ海軍ガ此協議ノ結果トシテ、大ニ之ヲ制限スルコトモ出來ルノデアリマス、而シテ其影響ハ忽チ全世界ニ及ンデ、無用ノ經費ヲ節約シ生民ノ幸福ヲ増進スルコトガ出來ヤウト思ヒマス、故ニ海軍ハ取敢ヘズ英米二國ト協定シテ、適當ノ制限ヲ立テヤウト云フ意味ニ過ギマセヌ、單獨ニハ海軍力ヲ縮小ハシナイ、協定ノ結果トシテ、亞米利加、英吉利ト共ニ制限ノ實ヲ擧ゲヤウ、ソレカラ第二ノ陸軍ハ、現在ニ於テハ、一朝事アル場合ニ於キマシテ、陸軍ヲ以テ日本ト對抗スベキ國ハ、露西亞帝國ガ今日ノヤウナ狀態ニ陥ッテ後ニハ、差當リ見當ラヌノデアリマス、支那モ平和ノ國ニシテ、大シタル陸軍ハナシ、露西亞ハ彼ノ通りニ内ニ紛擾ガアッテ、陸軍國トシテ世ノ中ニ雄飛スル憂ハ先ツ當分ハ無イ、而シテ他ニ歐羅巴、亞米利加ノ間ニハ、多少ノ陸軍國モアリマスルケレドモ、遠ク海ヲ隔テ居ッテ事アル場合ニ於テ、我ト陸軍ヲ以テ對抗スベキ位置ニ立ッテ居ラス、故ニ陸軍ニ就テハ、元來單獨ニ之ヲ整理縮小シヤウトスレバ、ソレヲシテモ國家ノ防禦ガ危クナルト云フ危險ハ現在無イノデアリマス、私ノ案ハ日本ガ單獨ニ之ヲ縮小シヤウト云フ意味ハ含マシテ居ラスノデアリマス、既ニ國際聯盟四十箇國ノ共同ノ問題トナッテ、理事會ニ於テ其成案ヲ立テルコトニナッテ居リマスル故ニ、陸軍ノ方ハ先ツ其方ノ進行ニ委セテ、帝國ハ其進行ヲ助ケ、及促ス位ノ態度ニ於テ宜カラウ、國際聯盟ノ外ニ立ッテ居ル所ノ亞米利加ト雖モ、陸軍國トシテハ別ニドウスルト云フコトモアリマセヌ故ニ、是ハ國際聯盟ノ方ノ進行ニ委セテ置イテ宜カラウト云フ意味デアアル、而シテ海陸兩軍ノ間ニ輕重ヲ置ク譯デアリマセヌケレドモ、現在ノ所海軍ニハ約五億ニ近イ金ヲ來年モ費スコトナリ、陸軍ハソレニ比スレバ、ズツト金額モ少ナイ、自ラ現在ノ財政問題トシテハ輕重ノ別モアリマスル故ニ、此重キ方ヲ先ツ差當リ解決スレバ、金額モ少ナイ方ノ陸軍ハ切々迎ヘテ解決ケルノデア、大層處分易カラウト云フ考ヨリシテ、陸軍ノ方ハ國際聯盟ノ進行ノ方ニ先ツ當分委シテ置カウ、海軍ハ英米二國、殊ニ米國トノ協定ヲ、受動的ニモ、主動的ニモ、其間ニ必ズシモ我カラ申出サナケレバナラス、彼カラ來ルノヲ待タナケレバナラヌト云フヤウナ考ハ、私ニ於テハ無イノデアアル、是ガ本案ノ大體ノ理由デアリマス、但シ陸軍ニ於テハ餘程整理ノ餘地ガアルト思ヒマス、色々ノ科目ガ種々雜々ニ紛雜シテ居テ同ジガ力備ヘルノニ、餘程重シテ金ヲ使ッテ居ルヤウニ見エマス、故ニ是ハ國際會議ノ進行ヲ待タズシテ、國內ニ於テ自ラ整理シテ宜イ、豫算委員ガ整理ノ衝ニ當ッテモヨシ、又陸軍自ラ整理シテモ宜シ、整理スルガ爲メニ陸軍ノ防禦力ヲ少シモ減

ラス譯デハアリマセヌ、故ニ整理ハ他國ノ關係ヲ俟タズシテ、一刻モ早ク國家ノ爲メニ致スコトハ宜シカラウト思ヒマス、力ノ縮小——攻防力ノ縮小ニ至テハ、列國ト共ニ之ヲ致シタ方ガ、世界ノ平和ニ貢獻スル上ニ於テモ宜カラウト云フノガ此案ノ意味デアリマス、而シテ國防ノ問題ハ申スマデモナク國家ノ安全ヲ保障スルニ過ギナイデアリマス、故ニ國家ノ安全サヘ保障セラル、ナラバ、其力ヲ多ク用井テ安全デモヨシ、少ナク用井テ安全デモ差支ナイ、詰リ目的ハ國家ノ安全ニ外ナラヌデアリマス、此ニ於テ或ハ制限、或ハ縮小ト申シマシテモ、國家ノ安全ヲ維持スル上ニ於テハ、寧ロ此決議案ノ趣意ガ實際ニ行ハルレバ、其趣意ハ増加スルトモ減少スルコトハナイ、今日ノ儘テ進行スル方ガ、却テ國家ノ安全ヲ危クシ、隨テ國防ノ充實ヲ缺クト云フ結果ニ陥ルコトヲ信ジテ居ルノデアリマス、此軍備縮小ト云フ事ハ、帝國トシテハ、既定ノ事實ト申シテモ差支ナカラウト思フノハ、軍備縮小ノ事ハ、國際聯盟規約第八條ニ於テ明ニ約束ヲ致シテ居リ、其條約ハ既ニ疾クニ御批准ニナツテ居リマス、故ニ國際聯盟四十何箇國ト共ニ帝國臣民ハ皆ナリ御批准ニナタル條約ヲ遵守スベキ義務ヲ持テ居ル、即チ軍備縮小ト云フ事ハ、之ヲ實際ニ行ハナクシテバナラヌ境況ニ立テ居ルノデアリマス、且ツ他ノ國ニ見マスト、先ツ大體ニ於テ行フテ居ル、戰ニ參加シタ國ハ、戰時非常ニ戰ノ爲メニ兵員ヲ増加致シマシタカラ、之ヲ縮小スルノハ無論ノ事デアリマスケレドモ、海軍ノ如ク戰爭中ニ餘リ増加シテ居ラヌ國防ノ要素ニ至リマシテハ、國際聯盟ニ加盟シテ居ラナイ亞米利加ヲ除イテハ、英吉利、佛蘭西、伊太利、皆ナ海軍ノ擴張ノ方ハ全然中止致シテ居リマス、獨リ國際聯盟ニ加入シテ居テ、尚且ツ海軍擴張ノ事柄ヲ條約御批准後ニ進行シテ居ルト云フノハ、恐クハ全世界中我ガ帝國一ツヨリ多ク無イノデハナカラウト疑フ、他ノ國ハ増加シテ居リマセヌ、條約通りニ行フテ居リマス、我國ニ於テモ、先達議會開會ノ初ニ當リテ、總理大臣及外務大臣等ノ説明スル所ヲ承リマスト、現在海軍制限ト云フコトハ、實際上ノ問題ニナツテ居ラヌカラ致方ガナイケレドモ、若シモ是ガ實際問題トナツテ、先方カラ照會ガ來ルナラバ、深キ注意ヲ拂ヒ、考慮ヲ拂フト云フ意味ノ言葉ヲ述ベラレテ居リマス、即チ其言葉ヲ反對カラ言ヘバ、我ヨリ進シテ軍備制限ノ事ニハ御力ナイケレドモ他國カラ申込マルレバ、我國ハソレニ對シテ慎重ナル考慮ヲ拂テ、御相手ニナルト云フ意味ト解スルヨリ外ハナイ、サウ致シテ見マスト、私ノ此決議案ト政府ノ意向トノ間ニハ、殆ド距離ハ無イヤツニ思ハレマス、私ハ向フ方カ來ルノヲ待ツ、即チ他動ノニ働クバカリデナシニ、幸ニシテ早ク先方カラ來レバソレニ應ジ、若シ來リ方ガ何カノ事情ニ

依テ遲レルナラバ、我カラ持出シテ彼ヲシテ之ニ應ゼシムルノモ、五大強國ノ一タル帝國ノ將來ニ向テ、執テ然ルベキ方法デアルト云フ、此一條ダケガ加味セラル、ダケデアツテ、政府ト私ノ意見トノ間ニハ、殆ド見ルベキ差異ガ無イカノ如クニ考ヘラレマス、現在ノ米國ノ狀況ハハッキリ分テ居リマセケレドモ、海軍軍備ノ制限ニ就テハ、獨リ上下兩院ニ於テ有力ナル議論トシテ行ハレテ居ルノミナラズ、民間ニ於テモ新聞紙其他有力ナル機關ニ於テ論議セラレテ居ツテ、全國ノ輿論ハ將ニ之ニ傾カントスルカノ如ク明ニ見エテ居リマス、唯ダ直チニ其事ガ外交問題トシテ來ラヌデアラウ、少シ遲レルデアラウト思フノハ、來月初ガ大統領ノ更迭期デアリマス故ニ、更迭後デナケレバ此等ノ問題ヲ起スベキ手續ガ當然定ラナイ、又定メナイ方ガ得策デアルト云フ關係ニナリマスガ故ニ、大統領ノ更迭ヲ自然待タナケレバナラヌト云フコトニナル、待ツ所ガ三月ノ初ニハ更迭スルノデアリマスルガ故ニ、若シ餘リ時代ガ遷延シナケレバ、恐ラクハ四月、五月、僅ニ今日カラ二三箇月ノ間ニハ端緒ヲ開カナケレバ、向フ方カ發議權ヲ執テ此方ニ交渉シテ來ルカモ知ラヌ、若シ其想像ノ通りニナルナラバ、私ト政府トノ意見ノ相違ト云フ點ハ、僅ニ二三箇月間相違シテ居ルダケデアツキ、二三月後ニハ、政府モ私ノ意見ト全ク符節ヲ合スルガ如キ位置ニ立ツヨリ外ハ仕方ガナイデアリマス、是ガ決議案ニ關スル現在ノ狀態デアリマス、先ツ外トノ關係、國際關係ヨリシテ此決議案ヲ——前二建議案ト申シタカ知レマセヌガ、ソレハ言葉ノ間違デアリマス、國際關係ヨリ此決議案ヲ說明致シマスト、元來國防ハ相對的ノモノデアリ、内ニ事變ヲ起ス者ガアルカ、外カラ來テ我ニ禍ヲ及ボス者ガアルニ非ザレバ、國ヲ守ル必要ハ起ラヌデアリマス、内ニモ外ニモ想像スベキ相手ガナケレバ、守ルト云フ事、必要ハ起ラヌ、故ニ何ト説明ヲ致シマシテモ、國防ハ詰リ内カ外カニ對スル國家ノ禍ヲ防衛スルト云フ事ニ外ナリマセヌカラ、之ヲ對外關係カラ申シマスト、現在ハ全世界ノ平和ノ裡ニ暮シテ居リマシテモ、何カ一朝事變ノ起リ、國際關係ガ紛糾シタ場合ニハ、何ノ國カト日本ハ衝突スルコトガアルカモ知ラヌ、其時ニ帝國ノ安全ヲ維持スルト云フノガ國防ノ目的デアツテ、敵無キニ陸海軍ヲ備ヘルト云フコトハ、有り得ベカラザル事ト信ジテ居ル、故ニ國防ハ絕對的デナク相對的ノモノデアルト云フ事ハ、豫メ御承知ヲ願フテ置キタイデアリマス、而シテ其國防ノ中、陸軍ノ對抗ハ人口ト金トガ要素トナル、如何ニ金ガアリマシテモ、佛國ノ如ク人口ガ少ナケレバ、人口ノ多キ獨逸ト對抗スルコトハ出來ナイ、ソレニ反シテ人口ノ少タ所ガ、充足シナケレバ、又強大ナル陸軍ヲ造ルコトノ出來ナイノハ申スマデモナイ、ソレト較べルト、海軍ハ人口ヲ要ス

ルコトガ極メテ少ナク、金ヲ要スルコトガ非常ニ多イ、一隻ノ戰艦ニモ今日デハ五六千万圓以上、一億ニ近イ經費ヲ要スル場合モアリマス、即チ陸軍ト比較シテ申シマストナラバ、海軍ノ擴張ハ、二國以上相對シテ海軍ノ擴張マスト云フコトハ、寧ロ主トシテ金ノ競争トナルベキ運命ヲ持テ居ル、故ニ如何ニ人口ガアツテモ、財力經濟力ガ充足スルニ非ズンバ、海軍擴張ノ競争ニ於テハ、ドウシテモ十分ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、故ニ此問題ニ歩ヲ進ムルニ當ツテハ、國ノ經濟力ヲ考ヘルコトガ最モ大切ト思ヒマス、其力ヲ計ラズ、己ヲ知ラズ彼ヲ知ラズシテ、漫ニ競争ノ端緒ヲ開キマスルナラバ、實ニ救フベカラザル窮ニ國家ヲ陥レルノ虞ガアルト、本員ハ甚ダ痛心ニ堪ヘヌデアリマス、且ツ今日海軍國トシテ指ヲ屈スベキ三箇國ノ中、英吉利ハ殆ド五六年間軍艦製造ヲ中止シテ居ルト云フ實際デアアル、少クトモ巡洋戰艦以上ノ軍艦ハ造ツテ居リマセヌ、大正五年ノ頃、即チ帝國ニ於テ海軍擴張ノ現在ノ計畫ニ著手シタ頃、英吉利モ巡洋戰艦四隻ノ建造ニ著手致シタヤウデアリマス、其後ジャットランドノ海戰ガアリ、海戰ノ結果トシテ軍艦製造問題ニ於テ非常ナル疑ガ起ラタ爲メデアリマスルガ、四隻ノ中三隻ハ、餘程工事が進行シテ居、タニモ拘ラヌ三隻ヲ中止シテ、タツク「ブド」ト云フ戰艦巡洋艦ヲ一隻ダケ完成致シテ、今日ハ見本トシテ殘テ居ルノガ既往六年間ノ事實デアツテ、英吉利ニハ此「ブド」號一ツヨリ外、戰爭中及其以後ニ於テ、建造シタ戰艦巡洋艦以上ノモノハ「マゼイマセ」日本、亞米利加ニ於テハ可ナリアリマセウケレドモ、英吉利ニハ無イ、佛蘭西、伊太利ニモ無イ、但シ伊太利ハ戰爭ノ始ツタ頃、以前ノ設計ニ係ルモノヲ一ツ餘程巨大ナ軍艦ヲ製造致シマシタケレドモ、是モ昨年頃ニ至テ俄ニ商船トシテ使用スルコトノ決議ヲ致シテ、軍艦トシテハ使用セヌコトニナツタコトハ、海軍省ヨリ豫算委員諸君ニ年々配テ、所ノ參考書ニ於テモ明記致シテ居リマス、故ニ世界中、國際聯盟ニ加入シタル世界ノ重立ツタル國ノ中ニハ、聯盟規約成立タ後ニ軍艦製造ヲ致シテ居ル國ハ無イ、少クトモ戰艦巡洋艦以上ノ軍艦ヲ起シ、若クハ著手シテ居ル國ハ無イト云フノガ事實デアツテ、偶英吉利ニ四隻、伊太利ニ一隻アツタガ、英吉利ハ三隻止メテ一隻殘シテ置キ、伊太利ハ其一隻ヲモ既ニ商船ノ方ニ譲リ渡シタト云フ實況ニナツテ居リマス、此時ニ當リテ日本ト亞米利加ノ間ニハ、競争デハナイト申スモノ、事實ニ於テハ、矢張競争デアアル、日本ガ大正五年ニ於テ軍艦製造ノ設計ヲ定メマスト、亞米利加モ亦同年ニ於テ我ト前後シテ設計ヲ定メマスト、其軍艦ノ性質種類大サ、速力、稍、兩國各長短ヲ競ツテ進シテ行クト云フノガ實況デアリマスガ故ニ、外交上ノ用語或ハ禮式ノ言

葉トシテハ、何ト云フ言葉ヲ使テモ、實體ニ於テハ競争ノ實ハ此ニ現レテ居ルノデアル、其亞米利加ハ金ノ競争ニ於テハ餘程都合ノ好キ位置ニ立テ居ル、戰爭以前ト雖モ餘程ノ富力ヲ持テ居ル、殊ニ戰爭以後ニ於テハ、世界第一ト云ハレタル所ノ富力ヲ持テ居ル、色ニナ人ノ専門家ノ計算ガアリマスルガ、其一端ヲ見レバ、英吉利ノ公立統計協會ニ於テ、一昨年朗讀セラレタル有名ナル「スタンボ」博士ノ計算ニ依リマシテモ、日本ノ人民一人前ノ所得ガ平均シテ一年ニ六十圓、亞米利加人ハ七百二十圓ト計算シテ居リマス、即チ我ガ國人ノ一年ノ所得ハ一人平均ニ致シマスルト、亞米利加人ノ百分ノ一ニハ足ラナイト云フ計算ニナル(笑聲起ル)海軍ガ所シテ此表ニ依テ見マシテモ、稍、同ジ數字ガ出テ居テ、殆ド同ジ數字ガ出テ居リマスカラ、先ツ大體ニ於テ是等個人々々ノ一人ノ稼ギ高ノ標準ト見テ差支ナイノデアル、其上ニ亞米利加ノ人口ハ一億有餘、日本ハ五千五百萬、此上カラシテイザ金ヲ使フト云フ點ニ至リマシテハ、亞米利加ノ方ガ日本ヨリ餘程樂ニ餘計ノ金ガ使ヒ得ルト云フコトハ申スマデモナイ、是ト軍艦製造ヲ競フ、恐ラクハ競フ程懸隔ガ甚シクナルデアラウト云フ心配ハ、常識アル者ニ取テハ何人モ起サザルヲ得ナイノデアル、明年度ノ豫算ヲ見マス、亞米利加ハ海軍擴張ノ爲メニ約十三億圓ヲ使フトニテ居ル、亞米利加ノ十三億圓ハ、同年度ノ九十二億圓ノ總歲出ニ比テ僅約一割四分ニ當ルノデアリマス、日本ハ同ジ年度ニ於テ四億九千萬圓ヲ使フトニテ居ル、之ヲ十五億六千萬圓ノ總歲出ニ對照致シマス、是ハ三割二分強ヲ使フトコトニナルテ居ル、一年ノ使高ノ内三割二分強ヲ使フトコトハ、中々奮發デアアルガ、亞米利加ノ如キ一割四分使フトコトハ、マデノ奮發ヲサズトモ出來ル、而シテ全額ニスレバ、彼レハ十三億、我ハ四億九千萬圓、三分ノ一ヨリ多イケレドモ、二倍ヨリカ餘程超過シテ居ル、是ハ全ク多ク掛ル所ノ戰艦及戰艦巡洋艦ヲ製造シテ行クト云フ上ニ就テハ、餘程考ヘナケレバナラヌ事ト思ヒマス、此ニ於テ此有様ヲ進行スル結果、我ガ海軍力ト亞米利加ノ海軍力ト比較ガドウナルカト云フコトハ、素人タル吾々ニ於テモ稍、判リマス、現在唯今ノ我ガ海軍力ト亞米利加ノ海軍力ト較ブレバ、稍、一ト二ノ割合ニテ居ル、我ガ一ニ對シテ彼レノ二ガアルト云フ割合ニテアルコトハ、我ガ外交官モ海軍ノ人モ常ニ世間ニ向テ言フ點デアリマス、然ルニ亞米利加ノ第二期ノ計畫ガ完成スル所ノ大正十二年、或ハ十二年頃ニナリマス、此一ト二ノ割合ガ餘程亞米利加ノ方ガ強イ割合ニナル、稍、一ト二ノ割合デアアルガ、餘程向フ方ガ有利ナル數字ガ出テ來ル、然ラバ日本ノ擴張計畫ガ完成スル所ノ大正十六年、

或ハ十七年ノ初、現在ノ八八艦隊ガ總テ出來上ツテ後ノ比較ヲ見マスルト、是モ海軍省ガ出シテアリマス、大分日本ノ方ガ宜イ割合ノ如キ數字ヲ海軍ハ廻シテ居リマスケレドモ、アレニハ斯ウ云フ事實ガアル、大正十三年、或ハ十二年以後亞米利加ハ四年間程、一切艦ヲ造ラズニシテ、懷手ヲシテ眺メテ居リ、日本ハ引續キ總歲出ノ三割位ノ金ヲ使テ行クト云フト、大正十七年ニハ現在及亞米利加ノ製艦事業ノ第二期計畫ガ終ラシメテ居リマス、日本ハ餘程有利ナル位置ニ立ツト云フ計算ヲ示シテ居リマス、我レガ此通り進ムノ、我ヨリカ餘程富力ヲ持テ居ル所ノ亞米利加ガ、三年モ四年モ懷手ヲシテ見テ居ラウト云フコトハ、事實ニ於テ有リ得ヌコトデアリマス、ソレヲ想像スル外、大正十二年ハ今日ヨリカ日本ノ海軍ガ比較的國防上有力ニナル、大正十七年ハ更ニ又今日ヨリカ有利ニナルト云フ計算ハ、ドウシテモ出テ來ヌノデアリマス、若シ四年間亞米利加ノ海軍擴張ヲ中止セシムルコトガ出來、日本ダケ擴張シテ行クトガ出來マスレバ、海軍省ガ世間ニ廻シテ居ルガ如キ數字ガ出テ來ル、彼レノ三ニ對シテ約我ノ二ト云フ數字ガ出テ參リマス、今日通りノ計畫ヲ行キマス、何時迄行テモ彼レノ二ニ對シテ我ノ一ガ少シ割合ガ惡クナルガケアル、良クハナラヌ、其上ニ彼レハ一割四分ノ力ヲ使フダケデアアル、デアリマスカラ之ヲ一割五分、或ハ我ガ奮發ノ半分我ガ三割二分ノ金ヲ使フニ對シテ、彼レガ一割六分ヲ使ヒマシクナラバ、ドウシテモ我ガ帝國ノ國防ハ、一年々々ニ非常ニ薄弱危險ニ赴クト云フコトハ、何人ガ計算ヲシテモ明カト判リテ居ルコトデアリマス、吾々ノ如キ國防ノ目的ハ國家ヲ安全ニスルニ在リト云フ見地ヨリ觀察致シマスレバ、此國防計畫ヲ亞米利加其他ヲ相手トシテ進行セシムルト云フコトハ、實ニ危險千萬ナルコト、斷ズルヨリ外ニ仕方ガアリマセヌ、唯ダ之ニ對シテノ辯解トシテ聞クノハ、動モスレバ八八艦隊ハ國防ノ單位デアアル、相手ガアラウガ無カラウガ、此單位ガ無ケレバ戰ガ出來ナイ、故ニ八八艦隊ハ是非進行シナケレバナラヌト云フ者ガアリマスケレドモ、是ハ事實如何ナルモノデアリマセウカ、八八艦隊ハ成程運用上甚ダ都合ノ宜キ艦ノ數デアアル、排列デアリマセウケレドモ、是ガ無ケレバ戰ガ出來ナイト云フモノデアリマス、其證據ニハ最初國防會議ニ於テ決定シタ時ハ、六四艦隊、六隻ト四隻ト云フモノデ、今ノ海軍大臣モ同意ヲ致シタノデアアル、ソレヨリ以前ニハ六四艦隊モ無イ、日露戰爭ノ時ニ波羅の艦隊ヲ全滅セシメルダケノカハアツタノデアアル、ソレヨリ前ニ週レバ、日清戰爭ノ時ニ、ノ輕微ナル巡洋艦ヲ以テ尙ホ戰ハ出來タノデアリマス、私ハ今日ニ於テアンナ薄弱ナル海軍ニ満足セヨトハ申シマセヌケレドモ、八八艦隊ト云フ單位ガ無ケレバ戰ガ出來ナイト

云フガ如キ説ヲ以テ世ノ中ニ向フ、詐クト申シマシクナラバ言葉ガ強過キマセウガ、此ノ如キ言葉ヲ以テ天下ニ向フト云フコトハ、甚ダ宜シクナイ、又之レ無ケレバ戰ガマルア出來ナイガ如ク考ヘルト云フニ至テハ、驚クベキ誤解ト申スヨリ外ハナイ、現ニ戰ハシテ居ルノデアリマス、四四デモ矢張單位トシテ働ケルノデアアル、六四デモ單位トシテ働ケルノデアアル、八八トシテモ働ケルノデアアル、其事ハ國防會議ニ於テ最初決メタ時ニ、現ニ六四デモ先ツ當分是デ宜シイト云フコトヲ廟議決定シタ、是ハ海軍大臣ヲ始トシテ、總テノ人ノ承知シテ居ル所デアリマス、斯ノ如クニシテ遺憾ナガラ今凡ノ狀態ヲ進メバ進ム程、但シ三四年間亞米利加ガ懷手ヲシテ軍艦製造ヲ一切止メテ居ルト云フ想像、其間ニ日本ハ一生懸命築造シテ行クト云フ想像ノ外ニハ、相對スル關係トシテハ、日本ノ海軍力ヲ比較的現在ヨリ強クスルノ途ハ絶對ニ無イノデアリマス、海軍ノ計算書ガソレヲ示シテ居リマス(ノウ)「ト呼フ者アリ」絶對ニ左様ナ事ノナイ場合、時ナルカナ亞米利加ニ於テ前申シタルガ如ク輿論ハ大ニ動キ現ニ五年間軍艦製造ヲ半減致サウト云フ意味ノ決議案ハ上下兩院ノ外交委員會ヲ通過致シテ居リマス、所謂「ボーラー」ノ決議案ナルモノガ通過致シテ居リマス、委員會ノ輿論モ之ニ響應シテ中ニ強イ、此場合ニ於テ縱シ日本ハ八八艦隊ヲ戰艦單位ナリト主張シタ所ガ、若シ此交渉ガ國際問題トナテ、彼ヨリ我ニ提議シ來リ、我ガ之ニ對手ニナテ、慎重ニ考慮ヲ拂フベキ場合ニ於テハ、必ズヤ八八艦隊ニ手ヲ著ケザルヲ得ナイノデアアル、八八艦隊ニ手ヲ著ケナイデ、此交渉ニ應ズルト云フ事ハ、此國際關係ニ於テドウシテモ有リ得ベカラザル事デアアル、交渉ニ應ズル以上ハ、手ヲ著ケル覺悟ニナラナケレバナラヌ、況ヤ彼カラ來ル所ノ交渉ハ、外交委員會ノ決議案ガ通過シタケデハハ、キリ分リマセヌ、如何ナル性質ノ交渉ガ來ルカハ分ラヌケレドモ、若シ外交委員會ノ通過シタ意味ノ交渉ガ來ルナラバ、現在ノ計畫ヲ半分ニ致サウ、取敢ヘズ五年間ニ半分ニ致サウト云フ交渉、若クハソレニ類似シタルモノガ來ルト鑑定ヲシナケレバナラヌ、向フニハ今ヤ三分ノ一ニ迄減ラサウト云フ案モ出テ居リマス、當ニ然ルノミナラズ、交渉ヲ開ク前ニ、先ツ差當リ亞米利加ダテ自分獨斷デ半年間軍艦製造ヲ休止ラシテ置イテ、此半年間ニ大統領モ更迭ヲシ、日本トノ交渉ヲ開ク餘地モアルカラ、先ツ單獨ニ休止ラシヤウト云フ議論サヘアツテ、之ヲ海軍委員ノ意見ヲ問フ事ニ致シマシタ所、海軍委員デハ、亞米利加ダテ半年間軍艦製造ヲ休止スル事ハ危險デアアル、外ハドン、製造スルニモ拘ラズ、亞米利加ダテ休止スルノハ危險デアアル、若シ交渉ガ纏ラナイデ、再ビ急イテ前ノ計畫ヲ遂行スル場合ニ損ニナルト云フ意味ノ決議ガ、委員會

ダケハ通過シタカノ如ク——昨今通過シタカノ如ク電報ニ於テハ見ラレヌガ免ニ角トウナシテモ、ソレダケ日本ト交渉ヲ開ク前ニ先ツ自分ダケガ半年間休止ヲシテ置イテ交渉ヲ開カウト云フ議論モ、外交委員會ニハ起リ、是ヲ海軍委員會ニ移シテ、其利害得失ヲ研究シテ貰ハウト云フ事マデニ進ンデ居ルノデアリマス、若シ是等ノ交渉ニ日本ノ政府ガ——誰ノ政府ト云フ事ハ私ハ問ヒマセヌ、此内閣ガ續クハ此政府、是カラ更レバ次ノ政府、ドノ内閣ニセヨ、此交渉ニ應ジテ御互ニ協定ヲスル時ニハ、實際問題トシテハ取致ヘズ五年間、或ハソレヨリ少シ短カクナルカ知レズ、或ハ長クナルカ知レナイガ、ソコハ相談ノ結果五箇年間五割若クハソレ以上或ハ以下、申合ノ上減テサウ、而シテ其五箇年間ニ將來長ク遵守スベキ學術的ニ海軍ノ標準ヲモ定メタイト云フ意味ノヤウニ察セラレルノデアリマス、國際聯盟ノ方ニ於テハ、亞米利加ヲ除イタル列國ガ、學術的根據ヲ定メテ、世界ノ軍備問題ヲ解決シヤウト云フコトヲ現在モ相談シテ居リマスガ、此海軍ハ國際聯盟ニ加盟シテ居ラヌ所ノ亞米利加デアリマスカタ、ソレトハ違フ態度ヲ執テ居リマスガ、免ニ角五箇年間取致ヘズ極ク單純ニ現在ノ計畫ヲ半減若クハドレダケカニシヤウト云フ約束ヲシテ、其五箇年間ニ將來十年位ノ間御互ニ守ル事ノ出來ル學術的基礎ヲ求メテ、海軍ハ如何ニスル、陸軍ハ如何ニスル、航空隊ハドウスルト云フ問題ヲ、世界的ニ解決シヤウト云フ意思アルコトハ、疑フ容レル餘地ナキ事ダト考ヘル(然ラズ)ト呼フ者アリ)故ニ吾々ハ國民ニ向テ、即チ此委員ノ意見トシテハ、海軍協定ノ上、海軍制限ヲスルト云フ事ニハ、滿腔ノ同意ヲ表示スル意思ダケヲ茲ニ發表致シタリ、國際關係上其事ハ最モ有利ナル、國家前途ノ爲メニ然ルベキ事柄ト思フテ居リマス、第二ニ之ヲ國內關係カラ考ヘマスルト、主トシテ現在ノ財政狀態ヲ見ナケレバナリマセヌケレドモ、現在ノ財政狀態即チ十五億六千万圓ノ中カラ、十年度ニ於テハ海軍陸軍兩方合セマスレバ七億六千万圓ヲ使フト云フコトニナッテ居リマス、大體國防費トシテ七億六千万圓、即チ總歲出ノ四割八分七厘ニ當ルノデアリマス、實ニ驚クベキ金額ト言ハナケレバナラヌ、凡ソ總歲出ノ半バニ近キ金ヲ陸海軍ニ使フテ、満足ニ發達シテ行ケル國ノアラウ善ハアリマセヌ(英國ヲ見ヨ)ト呼フ者アリ)英國ハ(西班牙、英國ヲ見ヨ)ト呼フ者アリ)米國ニシテモ、英國ニ致シマシテモ、總歲出ノ三割内外デアリマス、我ハ五割ナノデアリマス、是等ノ事ハ唯ダ冷靜ナル數字ヲ、争フ餘地ノ無イコトデアリマス、一ト一ヲ合セレバ二ニナル、ソレダケハ御承諾ヲ願ヒタイノデアリマス、總歲出ノ四割八分七厘、又國家ノ主ナル仕事ハ無論繼續費トシテ致スノデアリマスガ、繼續費總額ノ中、四十億八千万

圓——四十億八千万圓ノ總額ノ中、二十九億九千万圓ハ陸海軍ノ繼續費デアリマス、即チ有ユル日本帝國ノ大切ナル事業費ノ約七割三分二厘ハ陸海軍ニ使フテ、其他ノ總テノ費用ハ僅ニ二割六分八厘ヲ以テ支辨シナケレバナラヌト云フノガ現在ノ繼續事業ノ狀態アル、大正十年以降總テ殘リテ居ルモノハ尙ホ二十四億萬圓アル、其中十八億萬圓ハ陸海軍ノ費用デアッテ、即チ三分二厘ハ陸海軍ニ使ハレ、残りノ六億六千万圓ヲ以テ日本全國ノ仕事ヲ致シテ行カウト云フノガ、現在ノ國家經濟ノ立テ方ニナッテ居ル、斯クノ如クシテドウシテ國家ガ満足ニ發達シテ行ケマスカ、陸海軍ノ總費額ハ大正十年度ニ於テ七億六千万圓デアアルガ、其同ジ年ニ入ル所ノ租稅ノ全額ハソレニ及バヌノデアリマス、七億五千万圓ガ租稅ノ全收入デアリマス、租稅ノ全額ヲ皆陸海軍ニ使フテモ、マダ一千万圓以上足ラヌト云フ身代ノ持方ヲ致シテ居ルノデアリマス、政府ノ總テノ仕事ハ租稅以外ノ收入、官業收入、國營事業、公債其他ヲ以テ僅ニ彌縫シテ行クノデアッテ、租稅ノ全額ハ陸海軍ニ注入シテ居ルト云フノガ今日我國ノ現狀デアアル、斯ノ如キ國ガ凡ソ國ラシキ國ニ於テ全世界何處ニアリマスカ、租稅ノ全額以上ヲ陸海軍ニ使フト云フ國ガ何處ニアリマスカ、ソレレ國家ガ安全ニ發展シテ行ケルト云フ考ハ何人ガ浮ベルノデアリマスカ、斯ノ如キ使方ヲ致シマスガ故ニ、若シ國家總體——中央政府總テノ費用、及地方ノ府縣市町村迄ノ費用ヲ皆ナ合セテ現在計算ヲ致シマスルト、人民一人ノ負擔額ハ四十三圓五十二錢、男女老若ノ別ナク、一人ニ付テ四十三圓五十二錢ト云フ負擔額(外國ノ例ハ如何)ト呼フ者アリ)而シテ稼高ハ戰爭以前ノ計算デアアルカラ少シハ違ヒマスガ六十圓(大ニ違フ)ト呼フ者アリ)六十圓稼イテ四十何圓ト云フ負擔額ヲシテ、ドウシテ人間ガ満足ニ個人々々トシテ生活ヲスルコトガ出來マスカ、近來死亡率ガ増加シ、徵兵検査ノ成績ガ段々惡クナルト云フコトモ、是亦多少ノ原因ハ此處ニ在ルト云フコトダケハ認メナケレバナラヌ(謹聽々々)ソレヲ誰ガ教ヘタ)ト呼フ者アリ)

○議長(奧繁三郎君) 靜肅ニ……

○尾崎行雄君(續) 斯ノ如キ國ノ經濟ノ持方ヲ致シマスル結果トシテ、陸海軍以外ノ仕事ハ、教育事業、生産事業、有ユル仕事ヲスル自然粗略ニスルヨリ外ニ致方ガナイノデアアル、農業——我が立國ノ根本タルベキ農業ノ如キモ若シ多少ノ資本ヲ此方面ニ使フトコトガ出來ルナラバ、開拓スベキ耕地モマダ餘程アリマス、全面積ノ一割五分ヨリ開拓シテ居ラヌノデアリマスルガ故ニ、如何ニ山ガ多クテモ、又此上二分ヤ三分位開拓スベキ地面ハ、東北ニ北海道ニ、到ル處ニアリマスレドモ、資金ノ不足ノ爲メニ、農商務省ハ徒ラニ開墾ノ案ヲ立テバカリテ、之ヲ實行スルコトガ出來ナイ(理想論ト呼フ者アリ)種籾ノ改良、肥料ノ改良、耕作法ノ改良、或ハ米穀貯蓄ニ當テ虫害豫防等、農商務省ノ中ニ考ヘテ居ル案ヲ實行サレタ所デモ、ソレダケデモ全國ニ於テハ、或ハ百万石ヲ以テ數ヘル程ノ節約——節約ト云フヨリハ無益ニ損スルコトハ——減少スルコトハ防ゲルノデアアル、況ヤ森林ハ全面積ノ七割ヲ蔽フ所ノ帝國ノ森林、之ヲ若シ獨逸ノ如キ經營ヲ致シマシタナラバ、森林ダケデモ年々數億ノ收入ヲ増加スルコトハ出來ルノデアアル、況ヤ水産業四面皆ナ海是ニ向テ適當ナル資本ヲ下シテ、漁業ヲ歐米ノ漁業國ノ程度迄致シマスルナラバ、是亦年々何億ト云フ收入ハ増加シテ、今日僅ニ一人當リ六十圓ト計算セラレテ居ルモノヲ、例ハ米國ノ如ク七百圓以上ニスルコトガ出來ズトモ、之ヲ増シテ百圓ニ百圓ノ收入ト爲スコトハ、斷ジテ六ヶシイ事デハナイノデアリマス、然ルニ各省ハ皆其案ヲ持テ居ル、灌溉ノ便ヲモト良クシタイ、耕地整理モモト助ケテヤリタイ有ユル仕事ヲシタイノデアアルケレドモ、金ハ皆ナ陸海軍ニ取ラレシマフガ故ニ、何レノ省ト雖モ國家ノ爲メニ爲スベキ仕事ガ爲セヌ、隨テ國ノ收入ハ世界殆下類例ノナキ程ノ憐レナル狀態ニ陥テ居ル、西班牙ノ如キデスラモ、人間一人當リノ收入ハ八十圓ト計算セラレテ居リマス、殆下八ヶ口ニスルコトモナイ程ノ西班牙デスラモ百十圓デアアル、五大強國ノ一ト誇ル所ノ日本帝國ノ各個人ノ所得ハ六十圓デアアル、斯海斯山ヲ控ヘ、斯農業地ヲ控ヘテ居リナガラ、ソレヲ十分ニ發達セシメナイノハ、皆ナ資金ノ窮乏ニ因ル……(君ノ收入如何)ト呼フ者アリ)

○議長(奧繁三郎君) 三枝君、靜ニ……

○尾崎行雄君(續) 此資金ハ——陸海軍ノ爲メニ約五割ノ金ヲ取ラレシマフ以上ハ、ドウシテモ農商務省其他ニ使フベキ金ノ出ヤウ善ハ無イノデアリマス、是ハマダ物質的ノ問題ハ可ナリト致シマシタ所ガ、我が教育事業ハ如何デアアル、今日教育費ヲ國庫カラ補助シテ貰ヒタイト云フ請願ハ、隨分澤山請願委員會ニ來ルヤウデアアル、吾々如何ニシテモ、ドウ云フ形デカ一億圓前後ノ金ハ國民教育其他ノ爲メニ助ケテヤリタイ、助ケテモアル、地租ヲ地方稅ニ渡サウトモ、或ハサウデナクシテ、國庫カラ一億圓ノ金ヲ教育補助トシテ渡シテモ、途ハ幾ラモアル、陸海軍ヲ制限サヘスレバ幾ラモアルガ、之ヲ制限セザル以上ハ、全國如何ニ騷イダ所ガ教育費國庫支辨ト云フガ如キ問題ハ、手ノ著ケラレヌト云フコトダケハ御承知ニナラナケレバナラヌ(同感)ト呼フ者アリ)何ヲシヤウニモ、陸海軍ヲ制限スルトセザルトニ依テ、岐レルノデアリマス、殊ニ驚クベキハ、義務教育ト謂ヒナガラ、他ノ文明國ニ於テハ、國庫カラ個人々々ノ學校生徒ニ補助、



推サ、ルヲ得ヌト云フ一事ニ就テハ、何人モ御不同意ハナカラウト思ヒマス、現在迄ノ戰艦ノ發達「トレドノート」ノ工夫、超弩級戰艦ノ工夫、皆英吉利ガ指導者トナシテ、日本其他ノ國ハソレヲ參酌折衷シテ後ヲ跟イテ行クノデアリマス、故ニ現在ニ於テ、少クとも海軍智識ニ至テハ、世界先ヅ英吉利ヲ推サナケレバナラス、況ヤ其國ハ最近ニ於テ「ジエトランド」ノ大海戰ニ戰テ居リマス、他ノ國ハ海戰經驗ガナイ、日本ノ經驗ハ「バルチック」艦隊ヲ全滅シテ、今日ニ於テ大層古キ經驗ニナリテ居ル、此經驗ヲ積マナイ前ヨリ、海軍の智識ニ於テ世界ニ優テ居ク英吉利、其上ニ經驗ヲ積ム所ノ英吉利ニ於テハ、而モ世界第一ノ其道ノ達人ト聞エタ所ノ「フイシヤ」提督ハ、現在ノ軍艦（此時發言スル者多シ）

ヲ致シテ居リマス、我國ノ海軍ノ知識ハ非常ニ尊敬ヲ致シマス、併ナガラ英吉利ノ一流ノ人ガ皆ナ迷ニ陥テ調ベテ居ル所ノ問題ヲ、我海軍ニ於テハ調ベル必要ナシ、彼等ハ皆ナ間違テ居ル、我ノスル事ガ正シト云フ程ノ知識アルコトヲ信ジタイガ、遺憾ナガラ是マデノ實驗ニ依ルト、之ヲ信ジ得ナイノデアリマス、甚ダ残念デアリマス、然ルニ英吉利デハ問題トシテ調ベテ居ルノニ、其後「ニ跟イテ今マデ設計シタ所」日本ニ於テ、殆ド問題ニナラザル如キ手續ヲ以テ湯水ノ如ク金ヲ使ヒ、終ニ總歲出ノ五割ニ近イ金、租稅全額ヨリ多キ所ノ金ヲ陸軍ト海軍トニ使イ、其大部分ハ海軍デアルト云フ事實ニ至テハ、果斷ナリ勇敢ナリト言ヘバ言ヘヌコトモナカラウガ、少シ旨目的ノ突進デハナイカト云フコトヲ心配致スノデアリマス、終リニ臨ンデ唯ダ一言申述ベタイノハ、成程協定ノ上ニ海軍擴張ニ制限ヲ加ヘルコトガ出來レバ、三分一減シテモ、五割減ラシテモ、但シハ三分ノ二減ラシテモ（全部減ラセト）呼フ者アリ）御互ニスル以上ハ、少シモ我國防力ハ弱クハナラナイ、外國モ強クナラズ、我モ弱クハナラズ、詰リ減ラシタタケガ德デアリマスカラ、是レハ宜シイニ違ヒナイ、此事ガ果シテ出來ルカ出來、ナイカト云フ疑ヲ十分ニ吾々ノ友人ハ持ッテ居リマス、私ハ日本ガ邪魔サヘ致サナケレバ、此問題ハ可能性ヲ持ッテ居ルト斷言ヲ致シマス、何故ナラバ無駄ナ金ヲ節約スルト云フコトハ、何所ノ國人ニ取テモ有利ナ業デアラ、今日重稅ニ苦ンデ居ルコトハ、日本程デハナイガ、亞米利加モ矢張苦ンデ居ル、英吉利ハ無論苦ンデ居ル、此重稅ニ苦シム場合ニ於テ、國家ノ防禦力、安全率ヲ減ラサズシテ租稅ヲ減ラシコトガ出來ルナラバ、假令一億デモ五億デモ、十億デモ、之ヲ歡迎スルコトハ當然デアリマス、故ニ協定モ何モセナイケレドモ、英吉利ノ如キハ前五六年間始下軍艦製造ヲ中止シテ居ル、佛蘭西モ獨斷テ中止シテ居ル、英吉利モ獨斷テ中止シテ居ル、唯ダ日本ト亞米利加タケガ建造ヲ急イデ居ルノデアラ、世界ノ海軍國ハ皆既ニ中止致シテ居ルト云フノガ現在ノ事實デアリマス、協定ガ出來ナイデスラモ中止シテ居ル、海ガ即チ英吉利ノ生命デアル海軍無ケレバ英吉利ハ死ス、活キテ居ルコトガ出來ナイトマデ古來傳説ノ二信ジテ居ル所ノ英吉利デスラモ、既往五六年間中止シテ居ル、其間ニ造タモノハ唯ダ「ブド」號一隻、是ガ事實デアラ、協定ガ出來ナイデスラモ、英吉利、佛蘭西、伊太利ハ既ニ中止シテ居ル殘テ居ル、所ハ唯二ツ、日本ト亞米利加デアリマスガ、其亞米利加ハ協定ヲシテ減ラシタイト云ッテ、上院デモ下院デモ有力ナル政治家ガ之ヲ論ジテ、既ニ兩方ノ外交委員會、最モ有力ナル委員會ノ一ツ、我國デ云ヘバ豫算委員會ニモ比スベキ有力ナル委員會ヲ兩院共通過致シテ居ルノデアリマス、總テ大統

領ガ更迭シテ、事ガ少シク緒ニ就キマスレバ、恐ラクハ四月ノ初或ハ五月ノ初アタリハ、日本ニ向テ協定ノ申込ヲ致スデアラウト思フ、其時ニ於テ之ヲ受ケント欲スル思想ハ、今日諸君ノ腦裡ニ定テ居ルヤウデ、申込デ申込マレテモ受ケヌト云フ人ハ恐ラク我帝國ニハ殆ド無カラウト思フ、僅ニ三箇月ノ後ニ其交渉ヲ受ケレバ應ズル、總理大臣モ外務大臣モ其意味ノコトヲ貴衆兩院ニ於テ明言ヲ致シテ居ル、其今日此場合、諸君ガ國論ヲ發表スル爲メニ——來レバ受ケルノデアラ、其意思ヲ發表スル爲メニ決議案、來ヤウガ遅ケレバ此方カラ申込シテ天下ノ爲メニ、世界ノ平和ノ爲メニ、發言權ヲ取ルノデアルト云フ國論ヲ發表スル、洵ニ百利アリテ、之ニ御賛成アラシコトヲ希望致ス（拍手起ル）

○議長（與繁三郎君） 尾崎君ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、是ヲ許シマス、望月小太郎君

○尾崎行雄君（續） 軍艦ハ一隻モ役ニ立ツモノハナイ、現在ノ軍艦一隻モ役ニ立ツモノハナイカラ、全部破壊セヨト呼ンダラハ、一昨年カラ一昨年頃デアリマス、獨リ「フイシヤ」元帥ノミナラス、諸君ノ御承知ノ通り、今回ノ海戰ノ勝利ハ「フイシヤ」元帥ガ海軍省ニ居タ時ニ、實驗シタ艦種及運用法ノ賜デ、アノ勝利ハ英吉利ニ歸シタト云フコトハ「フイシヤ」元帥ノ敵トナシテ居ル所ノ人デモ、今日デハ多ク許シテ居ル事實デアリマス、其世界有數ノ海軍通タル「フイシヤ」元帥ハ、現在ノ軍艦一隻モ役ニ立タヌカラ、皆ナ破壊シテ仕舞ヘ、斯ウ言フテ居ルノデアリマス、加之「サー」パーシー、スコット提督ハ、是亦海軍ノ知識ニ於テハ餘程優レタ人ト聞エテ居リマスガ、是亦戰艦、戰艦巡洋艦ト云フモノハ、將來主力艦隊トシテ不適當ナモノデアルト、非常ニ熱心ニ唱ヘテ居リマス、是等ガ原因シタルヤ否ヤハ分リマセヌケレドモ、英吉利ニ於テハ、一昨年建造中ノ軍艦ヲ悉ク中止シテ「ブド」號一雙タケ見本ニ殘シテ、後ハ六七分以上出來タモノモ皆ナ今日ハ中止シタ儘ニ、帝國々防委員ヲ設ケテ、如何ナル軍艦ガ果シテ他日有效ナルモノデアルカト云フコトヲ今日調査致シテ居リマス、是ハ唯タ事實デアアル、最モ進ンダル知識ヲ持チ、是マデ數十年ト云フヨリハ、百有餘年間全世界ヲ引廻シテ居ル所ノ識見ヲ持ッタル所ノ英吉利ニ於テハ、免ニ角如何ナル軍艦ガ果シテ他日ノ海戰ノ用ニ立ツカハ分ラヌモノト云フ疑ガ起リテ、建造ヲ中止シテ、專ラ調査研究中デアリマス、總理大臣ガ委員長トナリ、海軍其他ノ專門家ヲ網羅シタル強大ナル委員會ヲ開イテ研究中デアル、昨年ノ十二月大藏大臣ガ議院ニ出デ説明シタ演説ハ、諸君ノ御覽通り、此委員會ノ決定ガ濟ムマデハ、戰艦巡洋艦以上ノ主力艦隊ニ就テハ、一文ノ經費モ求メナイカラ、左様ニ御承知アレ、御安心アレト云フコトノ、大藏大臣ガ昨年ノ十二月ニ於テ、英吉利デハ衆議院デ報告

ハナラズ、詰リ減ラシタタケガ德デアリマスカラ、是レハ宜シイニ違ヒナイ、此事ガ果シテ出來ルカ出來、ナイカト云フ疑ヲ十分ニ吾々ノ友人ハ持ッテ居リマス、私ハ日本ガ邪魔サヘ致サナケレバ、此問題ハ可能性ヲ持ッテ居ルト斷言ヲ致シマス、何故ナラバ無駄ナ金ヲ節約スルト云フコトハ、何所ノ國人ニ取テモ有利ナ業デアラ、今日重稅ニ苦ンデ居ルコトハ、日本程デハナイガ、亞米利加モ矢張苦ンデ居ル、英吉利ハ無論苦ンデ居ル、此重稅ニ苦シム場合ニ於テ、國家ノ防禦力、安全率ヲ減ラサズシテ租稅ヲ減ラシコトガ出來ルナラバ、假令一億デモ五億デモ、十億デモ、之ヲ歡迎スルコトハ當然デアリマス、故ニ協定モ何モセナイケレドモ、英吉利ノ如キハ前五六年間始下軍艦製造ヲ中止シテ居ル、佛蘭西モ獨斷テ中止シテ居ル、英吉利モ獨斷テ中止シテ居ル、唯ダ日本ト亞米利加タケガ建造ヲ急イデ居ルノデアラ、世界ノ海軍國ハ皆既ニ中止致シテ居ルト云フノガ現在ノ事實デアリマス、協定ガ出來ナイデスラモ中止シテ居ル、海ガ即チ英吉利ノ生命デアル海軍無ケレバ英吉利ハ死ス、活キテ居ルコトガ出來ナイトマデ古來傳説ノ二信ジテ居ル所ノ英吉利デスラモ、既往五六年間中止シテ居ル、其間ニ造タモノハ唯ダ「ブド」號一隻、是ガ事實デアラ、協定ガ出來ナイデスラモ、英吉利、佛蘭西、伊太利ハ既ニ中止シテ居ル殘テ居ル、所ハ唯二ツ、日本ト亞米利加デアリマスガ、其亞米利加ハ協定ヲシテ減ラシタイト云ッテ、上院デモ下院デモ有力ナル政治家ガ之ヲ論ジテ、既ニ兩方ノ外交委員會、最モ有力ナル委員會ノ一ツ、我國デ云ヘバ豫算委員會ニモ比スベキ有力ナル委員會ヲ兩院共通過致シテ居ルノデアリマス、總テ大統

領ガ更迭シテ、事ガ少シク緒ニ就キマスレバ、恐ラクハ四月ノ初或ハ五月ノ初アタリハ、日本ニ向テ協定ノ申込ヲ致スデアラウト思フ、其時ニ於テ之ヲ受ケント欲スル思想ハ、今日諸君ノ腦裡ニ定テ居ルヤウデ、申込デ申込マレテモ受ケヌト云フ人ハ恐ラク我帝國ニハ殆ド無カラウト思フ、僅ニ三箇月ノ後ニ其交渉ヲ受ケレバ應ズル、總理大臣モ外務大臣モ其意味ノコトヲ貴衆兩院ニ於テ明言ヲ致シテ居ル、其今日此場合、諸君ガ國論ヲ發表スル爲メニ——來レバ受ケルノデアラ、其意思ヲ發表スル爲メニ決議案、來ヤウガ遅ケレバ此方カラ申込シテ天下ノ爲メニ、世界ノ平和ノ爲メニ、發言權ヲ取ルノデアルト云フ國論ヲ發表スル、洵ニ百利アリテ、之ニ御賛成アラシコトヲ希望致ス（拍手起ル）

○議長（與繁三郎君） 尾崎君ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、是ヲ許シマス、望月小太郎君

○望月小太郎君 唯今問題ニナシテ居リマス此議案ハ、軍備制限ニ關スル決議案ト云フ名ニ於テ、且ツ其提出者ハ政界ニ名譽アル尾崎行雄君ト云フ名ニ於テ、二重ノ注意ヲ此議案ニ喚起致シテ居リマス、私モ本案ノ結果ニ對シテハ、國家典廢ノ岐ル、所デアルト云フ觀念ヲ持ッテ居リマスルガ故ニ、此議案ヲ提出セラレタル尾崎君ニ向ッテ、質問ニ先ダチ此壇上ヨリ一應ノ敬意ヲ拂ヒマス（笑聲起ル）サリナガラ此問題ガ斯クマデ國家典廢ノ岐ル、問題デアル、ソレダケ吾々ハ之ヲ慎重ニ調査セナケレバナラス、此案ヲ見マスレバ軍備制限ノ海陸二ツニ分ケマシテ、海軍々備ハ英米二國ト協定シテ之ヲ制限スルト致シ、陸軍軍備ハ國際聯盟規約ニ基キ、之ヲ整理緊縮スルコトノ一項目ニ分ッテ居リマスルガ故ニ、此決議案提出者タル尾崎君ニ向ヒマシテ、此項目ニ從テ本員ノ疑義ヲ後ニ質シテ見タイト思フ、先ヅ尾崎君ノ此決議案ノ趣意ヲ承テ見マスレバ、我國ガ主動ノニ之ヲ列國ニ提議致シテモ宜シイ、或ハ他動的ノ提議ニ應ジテモ宜シイト、斯様ニ言ハレテ居リマス、倍テ其他動的ノ提議ニ應ズルト云フコトニ就テハ、既ニ現内閣モ他國ニ於テ具體的案ヲ提供スル場合ニハ、之ニ對シテ深く考慮ヲ拂フト言ウテ居ル、其言葉、並ニ先刻尾崎君ガ引用セラレタ國際聯盟ノ第八、第九第十條、之ニ於テハ即チ他動的ノ軍備縮小ヲ目下列國中ニ於テ協議シツ、アリマスルガ故ニ、私ハ主トシテ自動的、即チ日本ガ主動シテ此軍備制限案ヲ提出スル場合ニ於ケル疑義ヲ、尾崎君ニ御尋フセナケレバナラス、先ヅ海軍々備ノ制限ヲ英米ノ二國ニ提議スベシトノ御趣意ハ、本員モ去ル二月二十四日之ヲ政府ニ提議致シマ

○望月小太郎君 唯今問題ニナシテ居リマス此議案ハ、軍備制限ニ關スル決議案ト云フ名ニ於テ、且ツ其提出者ハ政界ニ名譽アル尾崎行雄君ト云フ名ニ於テ、二重ノ注意ヲ此議案ニ喚起致シテ居リマス、私モ本案ノ結果ニ對シテハ、國家典廢ノ岐ル、所デアルト云フ觀念ヲ持ッテ居リマスルガ故ニ、此議案ヲ提出セラレタル尾崎君ニ向ッテ、質問ニ先ダチ此壇上ヨリ一應ノ敬意ヲ拂ヒマス（笑聲起ル）サリナガラ此問題ガ斯クマデ國家典廢ノ岐ル、問題デアル、ソレダケ吾々ハ之ヲ慎重ニ調査セナケレバナラス、此案ヲ見マスレバ軍備制限ノ海陸二ツニ分ケマシテ、海軍々備ハ英米二國ト協定シテ之ヲ制限スルト致シ、陸軍軍備ハ國際聯盟規約ニ基キ、之ヲ整理緊縮スルコトノ一項目ニ分ッテ居リマスルガ故ニ、此決議案提出者タル尾崎君ニ向ヒマシテ、此項目ニ從テ本員ノ疑義ヲ後ニ質シテ見タイト思フ、先ヅ尾崎君ノ此決議案ノ趣意ヲ承テ見マスレバ、我國ガ主動ノニ之ヲ列國ニ提議致シテモ宜シイ、或ハ他動的ノ提議ニ應ジテモ宜シイト、斯様ニ言ハレテ居リマス、倍テ其他動的ノ提議ニ應ズルト云フコトニ就テハ、既ニ現内閣モ他國ニ於テ具體的案ヲ提供スル場合ニハ、之ニ對シテ深く考慮ヲ拂フト言ウテ居ル、其言葉、並ニ先刻尾崎君ガ引用セラレタ國際聯盟ノ第八、第九第十條、之ニ於テハ即チ他動的ノ軍備縮小ヲ目下列國中ニ於テ協議シツ、アリマスルガ故ニ、私ハ主トシテ自動的、即チ日本ガ主動シテ此軍備制限案ヲ提出スル場合ニ於ケル疑義ヲ、尾崎君ニ御尋フセナケレバナラス、先ヅ海軍々備ノ制限ヲ英米ノ二國ニ提議スベシトノ御趣意ハ、本員モ去ル二月二十四日之ヲ政府ニ提議致シマ

○議長（與繁三郎君） 尾崎君ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、是ヲ許シマス、望月小太郎君

○議長（與繁三郎君） 尾崎君ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、是ヲ許シマス、望月小太郎君





説明ヲ致シテ置キマシタ、國際聯盟ノミナラス、海軍ノ協定即チ亞米利加、英吉利ヲ相手ニシテ居ル所ノ協定モ、取敢ヘズ亞米利加ニ行ハレテ居ル所ノ、五年間現在ノ計畫半減ト云フ位ノコトヲ基礎トシテ、ソレデハ八年ヲ増減シ、或ハ割合ヲ増減スルコトハ、協議ノ上ニ讓リテモ然ルベキ事デアラシ、而シテ其事ガ定マレバ、其五年間ニ於テ學術的基礎ハ、徐ロニ全世界ノ學者、識者其他ヲ集メテ徐ロニ協定スルノガ、本員ノ此案ヲ提出シタ目的デ、今日ハ學術的基礎ヲ吾ミカラ出サウト云フノデナク、又日本ガソレヲ出ス必要ハ無いノデアリ、亞米利加ノ意見トシテ、約五年間五割減ト云フ案ガ出テ居リマスカラ、現在ノ海軍計畫ニ對シテ、先ヅソレヲ基礎トシテ、相談ヲ致サウト云フコトヲ、向フガ後レ、此方カラ遣ラウ、向フガ早ケレバ此方ガソレヲ受ケヤウト云フコトハ、大分細カニ説明ヲ致シテ置キ答デアリマス、ソレカラ杖ノ喻、是ハ御答ヲスル必要ハ無い、切レ、バ役ニ立タナクナルト云フ喻ヲ持出スト同時ニ、同ジヤウニ切テ役ニ立ツダケノ長サニシテ置キ宜イデアリマスカラ、サウ云フ喻ニ就テ問答スルト云フガ如キハ、全く無用ノ事デアル、ソレカラ八八艦隊ガ必ズ戰艦單位デアルト云フコトニ就テモ、一通リ御話ハ致シテ置キマシタ、成程便利ナル艦隊ノ艦ノ數デアリ、配列方法デアルト云フコトハ首肯サレマスケレドモ、單位ト云フト、何カソレガナケレバ、戰爭ガ出來ナイカノ如キ感ジテ人ニ起サセル言葉デアル、サウデハナイ、八八艦隊ト雖モ戰爭ノ出來ル證據ニハ、彼ノ波羅の艦隊ヲ全滅シタ時ニハ八八艦隊ト雖モ無カッタ、支那ノ艦隊ヲ全滅シタ時ニハ無論ナカッタ、(無論ト呼フ者アリ)戰爭ハドレデモ出來ル、四四艦モ出來ル、八八艦モ出來ル、六四艦モ出來ルノデアラデ、大隈内閣ニ於テ決定シタ時ニハ、六四計畫ヲ決定致シタノデアラデ、八八計畫ヲ決定致シタノデアラリマセヌ、(ソレウ)ト呼フ者アリ)ソレカラ要塞ノ事、是モ餘程議論デ、多分困ラセル爲メニソナコトヲ言テ見タノデアラウト私ハ感ジマス、今日ソナ問題ニ觸ル、必要ハ少シモナイノデアル、殊ニ又如何ナル場合ニ於テモ、吳、橫須賀ヲ撤廢スルト云フガ如キ計算ハ、海軍計畫ヲ半分ニシテモ、四分ノ一ニシテモ出來ル、三分ノ一ノ時ニモ橫須賀ハアツタノデアリマスカラ、サウ云フコトハ餘リ無計算ニ言フベキモノデアナイト云フガケテ私ハ感ジテ居リマス、(拍手起ル)ソレカラ軍機及其他ノ秘密ト云フ事モ、國際聯盟規約ニ、御互ニ腹藏ナク通知シヤウト云フコトノ約束ガ出來テ居ッ、漸次吾ミハソレヲ成文通りニ行ハスベク努ムルノガ、世界列國ノ人ノ進歩シタル考デアラテ彼ノ條約ヲ批准シテ居リナガラ、尙ホ秘密ヲ持テ居ラウ、不意打ヲ掛ケヤウト云フコトハ、吾ミトシテハ斷ジテ無いノデアリマスガ故ニ、ソレハ國際聯盟規約ニ反對スル、御批准

サレタル聯盟規約ヲ無視スルト云フ諸君ニシテ、始メテ其疑ノ起ルベキモノデアラデ、吾ミトシテハ、左様ナ事ヲ御答スル必要モ無キノミナラス、疑ノ起ルベキ問題トシテ扱テ居リマセヌ、(拍手起ル)飛行機其他ノ事モサウデアラデ、要スルニ現在ノ問題ハ、經費ニ就テドレダケ減ラサウ、減タ經費ハドウ使フト云フコトハ、各、其國ノ國情ニ對シテ委セルヨリ外ハ仕方ガナイ、ソレヲ巧ニ使フ國モアラウ、下手ニ使フ國モアラウ、ソレハ仕方ガアリマセヌ、人ノ智愚賢不肖ヲ平均スルコトガ出來ナイガ如ク、金額デ略、制限ハ出來ルケレドモ、其殘タ金ヲドウ使フカト云フガ如キコトハ、是ハ矢張金ヲ委セルヨリ外ハ致方ガナイト思ヒマス、ソレカラ協定ヲ破壞セラレタト云フハ、破綻セラレタ時ニハ、國際聯盟規約ニ扱方ハ略ホ定メテアリマス、亞米利加ガソレニ現在入ッテ居ラスカラドウスルカト云ヘバ、獨逸ガ條約ヲ結シテ居リナガラ、ソレヲ破壞シタト云フニ、世界列國期セズシテ之ヲ擊タト云フノガ、正義仁義ニ嚮フ所ノ人間ノ至情デアリマス、故ニ何レノ強者ガ無法ニシテ之ヲ破壞シテ來タナラバ、全世界ノ反對ヲ受ケルト云フコトガ一面ノ當リ獨逸ガ經驗シタ所ノ教訓デアリマス、故ニ今日以後此經驗ニ懲リテ、何レノ強者ト雖モ、筋ノ立タヌ亂暴ナル破壞ノ仕方ハ出來ナイ、ソレヲスレバ其國ハ全世界正義ノ敵トナテ、獨逸ガ亡ビタルガ如ク亡ビルノガ最後ノ手續デアラデ、ソレヨリ以前ニ於テ、臆テ何等カノ形デ亞米利加モ國際聯盟、若クハソレニ似タル團結ノ中ニ入ラウト思ヒマスガ、ソレニ入レバソレニ對スル直接ノ制裁トシテ經濟的封鎖アリ、仲裁裁判法廷ガ成立ソトキニハ裁判問題トナリ、種々國際聯盟規約ニ制定シテアル方針ニ於テ、稍、通常ノ場合ハ方法ガ付キマス、又訴(場所)モアル、愈、亂暴シテ訴(場所)ノナイト云フニハ世界ノ正義ニ訴(レバ)獨逸ノ運命ニ兇暴ナル國ハ陥ルコトハ、眼前ニ手本ヲ見テ居ル次第デアリマス、陸軍ノ一師團云々ニ就テハ、餘リ今日ノ問題ニ就テハ關係ノ無いヤウデアル、其時ノ情勢ニ應ジテ、私ノ贊成シタル理由ハ、此席ニ於テモ何回トナク辯明ヲ致シテ置キマシタ、故ニ若シ御必要トアラバ、當時ノ速記録ヲ御覽ニナルコトヲ希望スルノデアリマス

○望月小太郎君 唯今ノ御答辯ヲ承テ見マスト、此軍備制限案ニ對シテハ、各國ノ學者專門家等ヲ集メテ、而シテ茲ニ始メテ學術的協定ノ評議ニ入ル、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、果シテ然ラバ此國際聯盟ノ第八條ハ、尾崎君ノ此決議案ヲ待ツマデモナク、其事ヲ明確ニ規定致シテ居リマス、即チ「聯盟理事會ハ各國政府ノ審議及決定ニ資スル爲各國ノ地理的地位及諸般ノ事情ヲ參酌シテ、軍備縮小ニ關スル案ヲ作製スヘシ」尙ホ常設委員ヲ設ケ得ルト云フコトニナテ居リマスカラ、此決議ノ必要ヲ認マセヌト云フコトヲ以テ、先刻ノ此點ニ關スル御答辯ニ對(テ)置キマス、更ニ後段ニ至リマシテ、軍備ノ點ニ就テ、將來之ヲ破ルモノガアレバ云々ト、御言葉デアラタ、併ナガラ協定期間ガ過ギタ後ニ、又元ノ復舊ノ場合ニ立至ラタキニ、工業ノ幼稚ナル我國ノ如キハ、非常ニ不利益ニナルト云フコトハ、マダ御答ガゴザイマセヌ、同時ニ此各國ノ協定ニ満足致シテ、遂ニ其國土ヲ蹂躪セラレタ白耳義ノ如キコトガ、將來斷ジテ國際間ニハ起ラヌト云フコトハ、(拍手起ル)未ダ夢想セザル所デアリマスカラ、唯今ノ御答辯ニ於テハ、満足致シマセヌト云フコトヲ申シテ置キマス

○議長(奧繁三郎君) 是ヨリ討論ニ入リマス、中野正剛君、植原悅二郎君ニ御尋申シマス、兩君ヨリ此決議案贊成ノ通告ニ、尾崎君ノ演說ヲ聽キタル上ニト云フ條件ガ附イテ居リマス、是ハ何レニ決セラレマスカ

○中野正剛君 贊成演說ヲ致シマス

○議長(奧繁三郎君) 矢張通告デ維持致シマスカ、植原君ハドウデス

○植原悅二郎君 維持致シマス

○議長(奧繁三郎君) ソレデハ先ヅ反對者カラ討論ヲ許シマス津野田是重君

○津野田是重君 唯今尾崎君ヨリ軍備制限ニ關スル所ノ詳細ナル御説明、又望月君ヨリ之ニ對スル所ノ有益ナル御質問ガアリマシタ、此軍備問題ハ御承知ノ通り一國ノ大事デアリマシテ、興廢存亡ノ繫ル所デアリマスカラ、慎重ニ討議ヲスル必要ガアルト思ヒマス、聊カ卑見ヲ述ベタイ考デアリマスカラ、暫ク御聽聽ヲ煩シマス、尾崎君ノ理想トサル、所ノ、即チ不生産的ナル兵備ヲ出來ルダケ縮小シテ、之ヲ生産的方面、及教育的方面ニ充當シ、國民民福ヲ増進セントスル所ノ其御意見ニハ、頗ル御同意デアリマスケレドモ、如何ニ帝國ガ獨リ之ヲ希望致シマシテモ、周圍ノ狀況ガ之ニ應ズルコトガ出來ナイ有様ニ於キマシテハ、單ニ希望ノミニ止テ實行ハ不可能デアル、若シモ世界各國ガ吾ミノ此趣旨ヲ十分ニ體得シ、之ニ共鳴ヲシテ、眞ニ正義人道ノ爲メニ永久ノ平和ヲ保ツコトガ出來タナラバ、之ニ越ス仕合ハアリマセヌケレドモ、現今ノ情況ハ左様ニ參リマセヌ、先ヅ尾崎君ハ海軍ノ事ハ英米兩國ノ協定ヲシヤウ、陸軍ノ事ハ國際聯盟ニ一任シヤウ、斯ウ云フ御意見デアリマス、我帝國ノ國防ハ、殊ニ海軍政策ハ、何モ英米ヲ對手ニシテ定メタノデアリマセヌ、即チ極東ニ於ケル所ノ四圍ノ狀況、帝國ノ安全ヲ保持スル爲メニ、必要已ムヲ得ザル最小限ニマデ之ヲ限定シテ定メテ居ル、自主自立ノ國防デアリマシテ、英米ヲ對手ニスルト云フガ如キ考ハ毛頭ナイ(拍手起ル)其毛頭

ナイ帝國ノ海軍ノ事ニ關シテ、故ラニ當方カラ例ヘバ三分ノ一、或ハ五分ノ一ニ制限セヤウト云フコトハ、恰モ今迄ハオ前等ノ對手ヲシテ居ルガ、今日以後ハモウ敵ハヌカトシ、是デ打切ルノデアルト云フヤウナ結果ヲ來シハセヌカト思ハレル、(ヒヤ)「拍手」又一步進シテ彼ガ我ガ申出ニ應スル、即チ日本ガ現在ノ經費ノ三分ノ一ナリ、或ハ五分ノ一ナリニ短縮シヤウト云フ其提議ニ應ジタト致シマシテモ、願クバ具體ノ成案ヲ示シテ貰ヒタイ、元來軍備ト云フモノハ、此著物ト同ジ事デアアル、寸法ガ合ハナケレバ、見掛ガ惡イノミナラズ、若テ著工合ガ惡イ、ダカラ一國ノ兵備ハ其國相應ノ著物デアアル、其裁方ガ間違テ居ルナラバ、俗ニ謂フ所ノ帶ニ短シ禪ニハ長イ、全ク役ニ立タヌコトニナル、如何ナル寸法ニスルカ、其寸法ノ成案ヲ伺ヒタイト來タラバ何ト答ヘル、モウ一ツハオ前カラ言出シタカラ請フ醜ヨリ始メヨ、日本ガ眞先ニヤルガ宜イ、然ラバ吾、ハ其例ニ倣ウテ、制限ナリ縮小ナリシヤウ、斯ウ云フコトヲ言ハレタ場合ニハ、ソレハヤラヌト云フ譯ニハ參リマセヌ、(無論々々)ト呼ブ者アリ)乃チ退引ナラヌ羽目ニ陥ルヤウナ事ガアリハヌマイカ、又モウ一ツハ是ハ望月君カラ御質問ガアリマシタガ、假リニ彼ガ善意ヲ以テ應ズル、永久ニ此協約ヲ守テ吳レルナラバ問題ハ無イケレドモ、何カノ事情ノ爲メニ五年乃至七年ノ後ニ之ヲ破ルト致シマス、所ガ尾崎君ガ言ハレル通り、英米ノ富ノ力、並ニ製艦能率ト云フモノハ我國トハ比較ニナラズ、ダカラ一朝此協約ヲ破テ、彼ガ勝手ニ軍艦ヲ拵ヘル場合ニ於キマシテハ、是ハ既ニ歐洲戰亂ニ於テ實例ガアル、即チ亞米利加ガ歐洲大戰ニ參加シテ、僅ニ一年五箇月間ニ六百萬ノ大金ヲ費シ、三百五十萬ノ陸兵ヲ部署シ、二百五十萬噸ノ艦船ヲ造テ居リマス、又英吉利ハ八百三十二億圓ノ金ヲ投ジテ、戰爭中ニ俄ニ強制徵兵令ヲ執行シ、約五百萬ノ大兵ヲ西部戰場ニ部署シ、橫暴極リナキ獨逸潜水艇ニ對シテ常ニ艦船ヲ補充シテ、最後マデ海上ノ優越權ヲ占メタ、斯ノ如キ事ハ英吉利ナリ、亞米利加ノ如キ、國富ミ、技術ガ進歩シテ居ル所ニ於テハ出來マスガ、我が帝國ニ於テハ、遺憾ナガラ此英米ニ比較シテハ金ト云ヒ、技術ト云ヒ比較ニナラヌ程劣テ居リマス、俗ニ謂フ所ノ貧乏國デアアル、貧乏國ニ於テハ平常カラ遺棄ヲシテ、能クイツ何時デモ如何ナル事ニテモ應ズルダケノ準備ヲシテ置カナケレバ、一旦此協約ガ破レタトキニハ、取返シノ付カヌ所ノ深ミニ陥ルノデアアル(拍手起ル)此點ニ就キマシテ、私ハ大ナル疑惑ヲ懷イテ居ル次第デアリマス、次ハ陸軍ノ事ハ國際聯盟ニ任セル、國際聯盟ハ外見ハ一通リ成立テ致シテ居リマスガ、内容ニ至テハ頗ル如何ハシモノデアアル、望月君ガ言ハレタ通り超國家ノ威力ガ無イ、又之ヲ完全ニ運用シマスルノ

ハ、經濟聯盟ヲ結ビ付ケル必要ガ有ラダラウト思ハレル、加之此國際聯盟ヲ第一ニ主張シタ所ノ亞米利加ガ、眞先ニ脱退ヲ致シテ居ル、又全四年三箇月十一日ニ互リ、約四千億ノ金力ヲ費シ、約九百萬ノ人命ヲ損シタル此戰爭ノ大張本者タル獨逸ヲ除外シテ居ル、最後ニハ此流血戰ガ未ダ終ラザルニ當テ、思想ノ戰爭ガ起テ居リマス、此思想戰ノ慘害タルヤ、流血戰ノ比ニ非ザルコトハ私ガ喋リ要セヌコト、思ヒマス、即チ思想戰ノ噴火口デアアル露西亞ヲ擲擲シテアル、元來「ヴェルサイユ」平和條約ガ、露西亞ヲ片付ケズシテ始末ヲシタト云フコトガ大ナル過デアアル、即チ國際聯盟ハ亞米利加ヲ如ヘテ居ラヌ、肝腎ナ獨逸ヲ露西亞ヲ除外シテ居ル、如何ニ四十四國ナリ五國ナリ奇麗ニ掃除シテモ、若シモ獨逸ナリ露西亞ガ噴火シタラ何トシマス、斯ノ如キ不安ナル所ノ國際聯盟ニ帝國陸軍ノ運命ヲ託スル、是ハ如何ナモノデアリマセウ、何モソレ程マデニ帝國ガ自屈自卑ヲセヌデモ宜カラウ、帝國ノ國防ハ帝國自ラ律シテ行クガ宜イ、次ハ我が帝國ノ負擔ハ、他國ニ比シテ著シク過重デアアルト云フ御議論、是ハ私ノ調ベタ所ニ依レバ、左程帝國ノ負擔ハ他國ニ比シテ過重デハナイ、第一戰爭前ニ於テ英米ハ是ハ除外デアリマス、志願兵制度ヲ執テ居リマス、國民皆兵制度ヲ執テ居ル所ノ獨逸、佛蘭西、伊太利、並ニ日本等ニ於テ、毎年入營スル即チ兵役ノ義務ヲ負擔スル所ノ其統計ヲ取テ見マス、佛蘭西ガ一番多イ、人口千人ニ對シテ百五十人入營スル、獨逸ハ其次デ千分ノ百、伊太利ハ人口ガ僅ニ千五百方デアリマスガ、二十五師團ノ兵ヲ養テ居リマス爲メニ、是モ千分ノ七十五、然ルニ我が日本ハ僅ニ千分ノ四半デアリマス、又其陸海軍費ニ對スル國民ノ負擔ハ、戰爭前ニ於テ、即チ大正二年ノ統計デアリマスガ、國民一人ノ負擔スル額デアリマス、英國ハ十六圓五十錢、國民ハ六圓六十錢、佛蘭西ハ十五圓七十錢、日本ハ僅ニ三圓四十八錢デアリマス、又戰後ニ於テ即チ昨年ノ統計デハ、英國ハ五十一圓八十六錢、日本ハ僅ニ二十一圓七錢デアルヲ以上ノ統計ニ依リマシテモ、我が帝國ノ兵役負擔ハ決シテ過重デハナイト云フコトガ斷言サレル、次ニ陸海軍ノ軍備ヲ制限乃至縮小スルト云フコトデアリマス、之ニ就テ尾崎君ヨリ詳細ナル御説明ノ無カトコトハ、私ノ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、勿論專門家デ御在リニナリマセヌカラ、部分ノ特別ナル專門ノ部ニマデ立入テ御意見ヲ伺ハウトハ思ヒマセヌガ、少クとも陸軍ニ於テ三、海軍ニ於テ亦三箇ノ制限法ガアリマス、先ツ陸軍ノ方カラ申シマスレバ、第一今日二十一箇師團アル、ソレヲ十五乃至十六ニ減少スル、ソレガ第一、第二ニハ毎年假リニ二十五萬人入營スルトス

ル、二十五萬人宛入營スルモノヲ十五乃至十萬人ニ削減シヤウト云フ、ソレガ第二、第三ハ在營年限ヲ短縮スル、即チ今日ハ概ネ二箇年トナテ居リマスガ、之ヲ一箇年乃至一箇年半ニ切上ゲル、此三ツノ方法ガアリマスガ、之ニハ各利害得失ガアル、又海軍ニ就キマシテモ第一ニ大正九年度ヲ以テ切上ゲヤウト云フコト、第二ニ目下建造中ノモノハ竣工シヤウ、第三ハ後來ハ全ク艦船ハ造ラヌ、假リニ造ルトスルナラバ如何ナル比例ニスル、即チ艦艇ノ其比例ハ如何ニシテ辻褄ヲ合セルカ、少クとも陸軍ニ於テ三、海軍ニ於テ三ノコトハ十分考慮シテ、然後ニ此事ハ論ズベキコト、思フ、然ルニ之ニ就テ一言ノ御説明ノ無イコトハ返スベキモ吾、遺憾トスル所デアリマス、又一寸飛行機ノ事ニ就テ御言葉ガアリマシタガ、此空軍ト云フモノハ、今日ハ陸海共ニ必要缺クベカラザル國防ノ大機關デアリマス、英國ノ今年ノ豫算ハ二億一千万圓、佛蘭西ト亞米利加共ニ一億二千万圓ヲ計上シテ居ル、將來ノ戰爭ハ先ツ空中ニ於テ始マル、然後チ陸上而海上而戰爭トナリ、愈、行詰テ海中又ハ地中戰ナル、斯ウ云フ順序デアリマスガ、空軍ノ事ニ就テ餘リ御考慮ガ無イヤウデアリマスガ、我が帝國ハ地理ノ關係上、殊ニ家屋ノ構造ニ照シマシテ、空軍ニ對スル防禦ハ甚ダ缺點ガ多イ、然ルニ亞米利加ハ東ヨリ今年度ニ於キマシテハ「シャートル」カラ「アラスカ」ニ飛ビ更ニ我日本ニ參ルカ、或ハ西伯利ニ行カト云フ計畫ガアリマス、又隣邦支那ニ於キマシテハ、所謂飛行借款ナルモノヲ起シ、今年ノ暮ニハ二百五臺ノ新式ノ飛行機ガ現レルノデアリマス、殊ニ其中二十臺ハ上海乃至瀋陽カラ飛シテ、我が帝國ノ上空ヲ約三時間悠々ト飛廻ラデ、然後出發點ニ引返スダケノ能力ガアル、勿論是ハ商業用、通信聯絡用デアリマスガ一朝事アル時ニハ、此空軍ガ我帝國ニ及ボス所ノ其威力ト云フモノハ實ニ恐ルベキモノデアッテ、此空軍ノ行動如何ニ依テハ、我が精銳ナル陸海軍モ其活動ヲ爲スニ至ラズシテ、帝國ハ屈スルヤウナ羽目ニ陥ルカモ知レヌ、斯ノ如ク重大ナルモノニ何等ノ御考慮ノ無イト云フコトハ、繰返シテ私ハ遺憾トスル次第デアリマス、次ニ尾崎君ハ頗ル露西亞ニ就テハ樂觀ヲ抱イテ居ラル、ヤウデアリマス、私ハ帝國デアッテ時以上ニ今日ハ悲觀スベキモノト思ヒマス、何故カト言ヘバ「レニン」ト「トロツキ」ノ徒ハ、自己ノ主義ヲ宣傳スル爲メニ、「マホメット」以上ノ惡辣手段ヲ施シテ居ル、遠キ所ニハ金錢ヲ持テ行キ、近イ所ハ武力ヲ以テ行ク、即チ方法手段ヲ擇バズシテ四方八方ニ其暴威ヲ逞シスル、之ガ爲メニ昨年ノ夏波蘭攻撃ニ失敗致シマスヤ、新軍隊ノ編制ニ著手シテ、獨逸ヨリ兵器彈藥等ヲ製造スル所ノ職工約二萬人ヲ雇入レ、其他優秀ナル所ノ佐官級ノ者ヲ數千人輸入致シテ居リマ

ス——一寸茲ニ構造ニ入リマスガ、一昨年ノ暮ニ私ガ  
獨逸ニ參リマシテ、有ユル人ト會見ヲ致シマシタガ、其中日  
本ニモ來テ居テ所ノ一人ノ佐官ガアリマシタ、其佐官ガ私  
ニ話シテ申シマスノ、戰爭ガ濟シテ一番迷惑ヲ被テタノハ  
吾々軍人デアル、ソレハ一時ハ千二百萬人モ動員シ戰場ノ  
ミニ二百三十師團ヲ出シタノデアル、然ルニ敗ケテ結果十  
万ニ常備兵ハ制限ヲサレ將校ノ數ハ九割五分ハ不要ニナ  
タ、扱テ其九割五分不要ニナテ將校ノ中デ、將官級ノ者ハ  
恩給ヲ以テドウカスウカ食ヘル、又尉官級ノ者ハ年給ト境  
遇ノ關係上、他ニ職業ヲ變ヘテ容易ニ致スコトガ出來ルガ  
一番困ルノハ、佐官級デアル、恩給デハ家族ヲ養フコト固ヨ  
リ不可能デアル、又年輩ト境遇ノ關係上、俄ニ職業ノ變更  
モ出來ナイ、ソコデ今日ハ主義主張ノ問題デハナイ、如何ニシ  
テ生命ヲ保續スルカト云フノ問題デアルカラ、己ヲ得ズ吾々  
ハ、他日露西亞ニ入ラナケレバナラヌヤウナコトガアルカモ  
知レヌ、斯ウ申シマシタガ、現ニ一昨年ノ秋ニバルテック沿  
岸ニアリシ「フォンデル、ゴルツ」ノ有名ナル鐵師團ヲ始メトシ  
テ、多數ノ將校ガ「ボルシエウイス」ノ中ニ入リダコトハ公  
然ノ秘密デアリマス、即チ獨逸ノ優秀ナル將校ガ入ッテ居ル  
カラ、作戰計畫モ能ク出來、實地作戰ノ指導モ亦佛蘭西ヲ  
除イテハ、爾他ノ諸國ガ對手ノ出來ヌ程巧妙デアリマス、是  
ガ昨年夏ノ實績ニ鑑ミテ、波蘭ノ失敗ニ鑑ミテ、步兵ヲ  
六十五師團、騎兵ヲ二十五師團、合計九十師團ノ大兵ヲ  
今日編制シ、準備中デアル——茲ニ又一寸申上テマスガ、一  
體國民サヘモ食フコトハ出來ヌノ何デ兵隊ヲ養フカ、九十  
師團ノ大兵ヲ養フコトハ不可能デアルト、斯ウ云フ議論ヲ  
スル人ガアリマスガ、ソレハ見當違デアリマス、即チ露西亞ノ  
現況ニ於テハ、兵隊ニナルノガ一番衣食ノ爲メニ都合ガ宜  
シイ、兵隊ニナテ居レバ衣服モ著、食物モ食ヘル、其外デハ  
怪シイカラ喜ンデ居ルニナル、今日ハ源平ノ争ガ過ギテ、生  
命ヲ繋グト云フコトガ主ナル問題ニナテ居ルダカラ此九十  
師團ヲ準備シテ居リマスガ、之ガ雪解テ待テ波蘭ニ出マス  
カ、或ハ巴爾幹半島ニ掛ルカ、乃至ハ高加索ニ出ルカ、免モ  
角モ何カ一仕事ヲスルコトハ争フベカラザル事實デアル、此  
西伯利亞方面ニ彼ガ主力ヲ提テ來ルト云フコトハ、申ス  
マデモアリマセヌ、地形ノ關係上——併ナガラ昨年ノ暮カラ  
追々極東ニ其兵ガ増加シマシテ、今日ハ齊多ト共ニ即チ「ハ  
バロフスク」ノ「ブラゴエシテエンスク」ノ如キ地方ニ約六万  
過激軍ガ居ルト云フコトハ、是ハ争フベカラザル事實デアル  
是ガ一面不逞鮮人ヲ煽動シ、他面ニハ馬賊或ハ學匪、此學  
匪ト云フノガ、此頃到ル處ニ跋扈ヲ致シマスガ、口ニ正義人  
道ヲ唱ヘ、愚夫愚婦ヲ煽動シテ、サウシテ自己ノ利益ヲ圖ル  
之ヲ學匪ト名付ツケマス、此學匪共ト結托ヲシテ、何カ我ガ

朝鮮國境ナリ或ハ爾他ノ所ニ仇ヲスルト云フコトハ、是ハ十  
分期待ヲシナケレバナラヌ事デアル、モウ一ツハ支那ノ現況  
デアリマス、利權回收熱ニ浮カサレ、昨年露西亞ノ公使ヲ逐  
出シ、露西亞ニ與ヘタ所ノ利權ヲ全部回收ヲ致シテ近ク  
ハ哈爾濱ノ警察權マデモ握リテ居リマスガ、尙ホアハ好クバ  
「レニン」「トロッキー」ノ故智ヲ襲ウテ、國際借款マデモ踏潰サ  
ントスル有様デアル、斯ノ如キ物騒ナル時期ニ於テ、何故ニ日  
本ガ進ンデ軍備制限ヲ提唱シナケレバナラヌカ、(拍手  
起ル)固ヨリ吾々ハ斷ジテ軍國主義ヲ唱ヘル者デハナイケレ  
ドモ、極東ノ平和ヲ維持シテ、帝國ノ使命ヲ全ウスル爲メニ  
ハ、ソレ相應ノ即チ最小限ノ兵力ヲ蓄ヘテ置クコト云フコトハ  
是ハ必要缺クベカラザル事デアラ、敢テ喋々ヲ要シナイ、(拍  
手起ル)此意味ニ於キマシテ、今日此機會ニ軍備制限ト云  
フコトヲ日本ガ進ンデ提唱スルト云フコトニハ、私ハ反對デ  
アリマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 植原悦二郎君  
○植原悦二郎君 簡單デアリマスカラ、自席カラ申シマス  
○議長(奧繁三郎君) 矢張討論デスカラ登壇ヲ——  
〔登壇々々〕ト呼フ者アリ  
○植原悦二郎君 歐洲戰亂後ノ世界ノ大勢ニ鑑ミマシ  
テ、世界ノ文明國ガ競ウテ國際の正義ト人道ノ大義ニ則  
リマシテ、國際間ノ平和ヲ造ラント努力シツ、アルコトニ於  
テハ、少シノ疑問ヲ存スル餘地モ無イト信ジテ居リマス、此  
際ニ當リマシテ、我國ガ世界ノ五大強國ノ一トシテ、而モ國  
際聯盟ノ規約ニ承諾ヲ與ヘタ其一ツノ國ト致シマシテ、此  
規約ノ精神ニ基キマシテ、世界各國ト機會ガアリマスルナラ  
バ、自動的ニセヨ、將又受動的ニセヨ、軍備ニ對スル所ノ協  
定ヲ爲スノ必要アルト云フコトハ、少クモ時局ヲ遠觀シ得ル  
者ノ否定シ能ハザル所デアリマス、(拍手起ル)勿論英國或  
ハ米國ト軍備ヲ協定スルニ至リマシテモ、對手方ガアルコト  
デアリマスカラシテ、之ヲ如何ナル條件ニ向ッテ前提ヲ置イテ  
協定ニ當ルコトハ、何處ノ國ニ於テモ出來ナイコトデアリマ  
ス、故ニ此精神ヲ以テ私共軍備ノ協定ニ努力スルト云フコ  
トヲ、此場合ニ國民ノ代表者トシテ聲明スルコトハ、我國ノ  
軍國主義ニ對スル所ノ疑感ヲ解キ、我國ガ進ンデ正義ト人  
道ノ大本ニ基キテ、世界ノ平和ヲ樹立スルコトニ努力セシ  
トスルコトヲ明ニスル意味デアラウト思ヒマス、(ヒヤ)ト拍  
手起ル)唯今尾崎君ノ縷々論述サレマシタ所ノ點ニ就キマ  
シテハ、私共多少ノ疑感モアリマス、全部御贊同ノ出來ナイ  
事モアリマスガ、此提案ノ精神ニ基キテ、我國ガ世界ニ向ッテ  
我國自ラ進ンデモ、或ハ他國ノ要求ニ應ジテモ、軍備ニ對シ  
テ協定ヲ爲シ、世界ノ平和ト人道ノ爲メニ努力スルト云フ

コトヲ、國民ノ代表タル吾々ガ聲明スルコトハ、刻下ノ急務  
ナリト信ズルガ故ニ、此精神ニ於テ私共ハ贊意ヲ表シマス  
(拍手起ル)  
○岩崎勳君 討論終結ノ動議ヲ提出致シマス  
〔贊成贊成ト呼フ者アリ〕  
○議長(奧繁三郎君) 討論終結ノ動議ニハ贊成ガアリマ  
ス起立ニ依テ決シマス、討論終結ノ動議ニ贊成ノ諸君ハ  
起立ヲ求メマス  
(贊成者 起立)  
○議長(奧繁三郎君) 多數ニ依リマシテ討論ハ終結サレ  
マシタ、(拍手起ル)尾崎行雄君提出ノ決議案ニ對シテハ、  
岩崎勳君外二十三名ヨリ、記名投票ニ依リ採決シテ吳レ  
ト云フ要求ガアリマス、仍テ記名投票ニ依テ決シマス——  
大部缺席者モアルヤウデアリマスガ、記名投票デア決シマスカ  
ラ、成ルベク幹部ニ於テ御集メヲ願ヒマス(拍手)  
〔議長採決ヲ願ヒマス〕憲政會ハ御著席ガ無イヤ  
ウデス(ト呼フ者アリ)

○議長(奧繁三郎君) 是ヨリ記名投票ヲ行ヒマス、尾崎  
君提出ノ決議案ニ贊成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ青票  
ヲ御持參ヲ願ヒマス——閉鎖——氏名點呼ヲ行ヒマス  
〔書記氏名ヲ點呼ス〕  
決議案ヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ  
大竹 貫一君 尾崎 行雄君 田川大吉郎君  
齋藤宇一郎君 島田 三郎君 犬養 毅君  
板野 友造君 石川長右衛門君 濱田 國松君  
西村丹治郎君 星島 二郎君 土井 權大君  
大口 喜六君 渡邊 昭君 高柳覺太郎君  
高草美代藏君 中川幸太郎君 植原悦二郎君  
倉石 知藏君 前川 虎造君 福地 錢吉君  
小橋藻三衛君 古島 一雄君 近藤 達兒君  
鮎川 盛貞君 湯淺 凡平君 最上 直吉君  
關 直彦君 鈴木梅四郎君 砂田 重政君  
南 鼎三君 森下龜太郎君 林田龜太郎君  
富永孝太郎君 中野 正剛君 野溝傳一郎君  
松本 君平君 秋田 清君  
決議案ヲ否トスル議員ノ氏名左ノ如シ  
石井 三郎君 石川 善盛君 石川 玄三君  
石川 三郎君 石川 淳君 今井 今助君  
今泉嘉一郎君 岩崎宗茂助君 岩崎 勳君  
岩崎幸治郎君 岩本 平藏君 岩切 重雄君  
市村 貞造君 一宮房治郎君 飯島 信明君  
伊藤 虎助君 伊藤 廣幾君 伊坂秀五郎君  
伊澤平左衛門君 井上敬之助君 井上角五郎君

○議長(奧繁三郎君) 是ヨリ記名投票ヲ行ヒマス、尾崎  
君提出ノ決議案ニ贊成ノ諸君ハ白票、反對ノ諸君ハ青票  
ヲ御持參ヲ願ヒマス——閉鎖——氏名點呼ヲ行ヒマス  
〔書記氏名ヲ點呼ス〕  
決議案ヲ可トスル議員ノ氏名左ノ如シ  
大竹 貫一君 尾崎 行雄君 田川大吉郎君  
齋藤宇一郎君 島田 三郎君 犬養 毅君  
板野 友造君 石川長右衛門君 濱田 國松君  
西村丹治郎君 星島 二郎君 土井 權大君  
大口 喜六君 渡邊 昭君 高柳覺太郎君  
高草美代藏君 中川幸太郎君 植原悦二郎君  
倉石 知藏君 前川 虎造君 福地 錢吉君  
小橋藻三衛君 古島 一雄君 近藤 達兒君  
鮎川 盛貞君 湯淺 凡平君 最上 直吉君  
關 直彦君 鈴木梅四郎君 砂田 重政君  
南 鼎三君 森下龜太郎君 林田龜太郎君  
富永孝太郎君 中野 正剛君 野溝傳一郎君  
松本 君平君 秋田 清君  
決議案ヲ否トスル議員ノ氏名左ノ如シ  
石井 三郎君 石川 善盛君 石川 玄三君  
石川 三郎君 石川 淳君 今井 今助君  
今泉嘉一郎君 岩崎宗茂助君 岩崎 勳君  
岩崎幸治郎君 岩本 平藏君 岩切 重雄君  
市村 貞造君 一宮房治郎君 飯島 信明君  
伊藤 虎助君 伊藤 廣幾君 伊坂秀五郎君  
伊澤平左衛門君 井上敬之助君 井上角五郎君

磯田 三郎君	池田 泰親君	原田 十衛君	松山 常次郎君	松本 孫右衛門君	牧野 良三君
原田 佐之治君	原田 藤次郎君	八田 宗吉君	松山 耕藏君	前田 米藏君	益田 秀次君
林 毅陸君	蓮井 藤吉君	長谷川 宗治君	麓 純義君	福井 甚三君	深見 寅之助君
長谷場 敦君	花城 永渡君	花岡 次郎君	古林 與六君	古林 新治君	小泉 策太郎君
濱口 吉兵衛君	萩 亮君	西川 嘉門君	小橋 一太君	小久保 喜七君	江崎 幸太郎君
西村 正則君	本多 貞次郎君	友常 毅三郎君	遠藤 良吉君	穴水 要七君	阿部 武智雄君
戸水 寛人君	戸狩 權之助君	富安 保太郎君	淺石 惠八君	有馬 秀雄君	阿部 武智雄君
床次 竹二郎君	陣 軍吉君	小山田 信藏君	東 武君	赤田 瑳一君	林本 喜七君
小川 平吉君	岡崎 邦輔君	岡田 伊太郎君	青木 恆太郎君	佐々木 志賀二君	天春 文衛君
大島 實太郎君	大林 森次郎君	大岡 育造君	佐藤 實太郎君	佐藤 良平君	齊藤 鸞太郎君
渡邊 祐策君	若尾 幾造君	神原 政一郎君	齋藤 壽雄君	指田 義雄君	崎山 克治君
河相 三郎君	河崎 清君	河上 哲太君	櫻内 幸雄君	菊池 長右衛門君	菊川 惣吉君
川原 茂輔君	川村 數郎君	川口 誠三郎君	吉良 元夫君	宜保 成晴君	木村 清三郎君
改野 耕三君	海江田 準一郎君	粕谷 義三君	木村 作次郎君	木下 謙次郎君	木下 十四三君
加藤 重三郎君	加藤 久米四郎君	金光 庸夫君	木下 成太郎君	木本 甚三郎君	北山 一郎君
横田 千之助君	横山 寅一郎君	吉植 庄一郎君	北井 波治目君	三土 忠造君	三善 清之君
吉原 祐太郎君	吉野 小一郎君	高橋 長七郎君	水野 吉太郎君	宮崎 三之助君	宮崎 友太郎君
米田 稜君	米澤 與三三郎君	高見 之通君	宮古 啓三郎君	白井 博之君	下出 民義君
高橋 光威君	高橋 金治郎君	竹澤 太一君	島本 信二君	島田 俊雄君	清水 市太郎君
高木 第四郎君	高野 毅君	田中 隆三君	廣瀬 爲久君	廣瀬 鎮之君	樋渡 次右衛門君
竹上 藤次郎君	武田 德三郎君	龍野 周一郎君	樋口 伊之助君	日野 辰次君	匹田 銳吉君
田邊 熊一君	田村 順之助君	玉置 良直君	森 恪君	門田 新松君	元田 肇君
瀧 正雄君	多木 久米次郎君	塚原 嘉藤君	清 峯太郎君	望月 圭介君	妹尾 順平君
大道 寺慶男君	津野 田是重君	鶴見 孝太郎君	鈴木 峯太郎君	菅原 傳君	菅野 傳右衛門君
土屋 興君	坪田 十郎君	中倉 万次郎君	鈴木 錠藏君	鈴木 錠藏君	飯塚 春太郎君
根本 正君	中西 六三郎君	中倉 万次郎君	石井 研二君	濱口 雄幸君	早川 龍介君
中村 清造君	中島 守利君	成田 直一郎君	早速 整爾君	本田 恆之君	岡本 幹輔君
仲田 德三君	成田 榮信君	南里 琢一君	大津 淳一郎君	小野 重行君	香川 保忠君
永井 作次君	武藤 茂君	梅田 潔君	川副 綱隆君	門屋 尙志君	河野 廣中君
長峰 與一君	植藤 金吉君	宇野 勇作君	金澤 安之助君	横山 金太郎君	武内 作平君
植竹 龍三郎君	植場 平君	上埜 太郎君	龍口 了信君	田中 武雄君	内藤 濱治君
鶴澤 總明君	上塚 司君	野呂 重一君	村山 喜一郎君	野村 嘉六君	野田 文一郎君
野村 勘左衛門君	野村 治三郎君	野呂 重三君	木金 泰義君	山道 襄一君	降旗 元太郎君
野田 忠太郎君	野田 卯太郎君	黒住 成章君	木槍 三四郎君	安達 謙藏君	佐々木 千秀君
國重 政亮君	國澤 新兵衛君	久木 豊忠君	佐藤 啓君	三浦 得一郎君	齋藤 巳三郎君
栗林 五朔君	久慈 貫一君	山本 条太郎君	定行 八郎君	森田 茂君	箕浦 勝人君
久木 田叶君	山本 悌二郎君	山口 義一君	森 達三君	鈴置 倉次郎君	鈴木 周三郎君
山本 清三郎君	山口 永俊君	安原 仁兵衛君	鈴木 富士彌君	難波 作之進君	井内 歎二君
山口 熊野君	山口 嘉藏君	矢野 丑乙君	萩田 悦造君	矢島 專平君	長場 龍太郎君
谷津 新八郎君	柳原 九兵衛君	松實 喜代太君	上田 彌兵衛君	松田 三德君	山本 藤助君
八木 逸郎君	松浦 五兵衛君	松野 鶴平君	山邑 太三郎君		小菅 劍之助君
松岡 俊三君	松田 源治君				

越山 太刀三郎君	佐々木 平次郎君	木村 權右衛門君
三輪 市太郎君	守屋 松之助君	仙波 太郎君
井上 孝哉君	押川 方義君	田淵 豊吉君
山本 厚三君	安藤 正純君	佐々木 安五郎君
○議長(奥繁三郎君)	投票漏ハアリマセヌカ	投票漏ハ無イト認メマス
開鎖	投票ノ結果ヲ報告シマス	
投票總數	三百二十三	
可トスル者	三十八	
否トスル者	二百八十五	
〔拍手起ル〕		
○議長(奥繁三郎君)	仍テ此議案ハ否決サレマシタ	
○岩崎 勳君	日程第三十三以下ニ對シテ、延期ノ動議ヲ提出致シマス	
〔贊成「贊成」ノ聲起ル〕		
○議長(奥繁三郎君)	岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ	
〔異議ナシ「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕		
○議長(奥繁三郎君)	仍テ動議ノ如ク決シマシタ、本日ハ之ニテ散會	
午後五時二分散會		
衆議院議事速記録第五號正誤		
頁 段 行	誤	正
六八 上 三一		
七四 下 六	維持	一時
衆議院議事速記録第七號正誤		
頁 段 行		
九三 上 二六	「松下禎二君」ヲ加フ	
衆議院議事速記録第十一號正誤		
頁 段 行	誤	正
二〇三 上 三一		
二一七 下 九		五